

2015

京都橘大学 地域連携実績集

(2015年4月～2016年3月)



京都橘大学地域連携推進機構

地域連携センター

Center for Regional Collaboration

目次：京都橘大学地域連携実績集

I. はじめに		2
II. 2015年度 京都橘大学における地域連携、この1年の歩み		3
III. 地域連携の主な事例		
A 2015年度の表彰	きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰 地域コミュニティに貢献 げん kids ★ 応援隊	7
	「安全・安心 MAP」で山科警察署から表彰 京都子ども守り隊 ～守るんジャー～	8
B 地域で学ぶ教育実践	地域の声を本学の教育改革に反映させる 京都橘大学「山科醍醐地域教育懇話会」	9
	世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み	10
	京都世界遺産 PBL (Project Based Learning) 科目	10
	京都市内のお店を学生のこだわり目線で見つけて紹介	11
	小冊子『こだわり市場』 発刊・Web 版「こだわり市場」制作	11
	地域情報も掲載、完全オリジナル学生手帳を制作	12
	京都橘大学オリジナル手帳 Techobana ! (てちよばな!)	12
	草津市における来街者調査の実施 「マーケティング調査演習」の取り組み	13
C 産学公連携による活動実績	公営住宅のなかに大学の拠点を常設 醍醐中山団地における地域連携活動	14
	滋賀県草津市との包括協定にもとづく連携事業 子育て支援・就学前教育サポートのとりくみ	15
	滋賀県草津市社会実験推進事業 子育て支援のための意識調査および市民講座	16
	高齢者の健康づくり 高齢者を対象に健康促進活動	17
	体力測定記録会への協力 大津市老人クラブ連合会との連携事業	18
	「フレキシブルな太陽電池を用いたスマートフォンケース」をプレゼン	19
	開放特許 PBL の活動と知財活用アイデア全国大会	19
	ゼミ学生と京都市職員が協働 京都市事務事業評価サポーター制度への参加	20
	東京の GU 本社での最終報告会へ進出 GU の会社案内作成等の産学連携 PBL 活動	21
	熊野地域の観光や地域振興に協力し、地域の魅力を発信してゆく	22
	京都橘大学・熊野再発見プロジェクト	22
	医学・看護教育用シミュレータ おむつ交換トレーニングモデルの開発	23
	「体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響」についての共同研究	24
	アイシン精機株式会社との共同研究	24
D その他の地域連携活動	年々イベントの規模が広がっています やましな駅前陶灯路の取り組み	25
	「出張たちばな健康相談」のスタート たちばな健康相談の活動	26
	大学を拠点に様々な地域へ出向くアウトリーチ活動 たちばな健やかクラブの活動	27
	「たちばなドリームチャレンジ」採択 みんないきいき幸齢教室	28
	京都マラソン救護ボランティアに参加	29
	救急救命研究会 TURF の活動 ～地域防災への参加～	29
	地域との連携をいっそう発展・促進させるために 橘セッション	30
E 受託研究・補助事業	山科“きずな”支援事業に採択される やましな腰痛改善・予防教室	31
	山科“きずな”支援事業に採択される パパとママのこころ育て広場	32
	大学コンソーシアム京都受託研究 2015年度「未来の京都創造研究事業」に採択	33
	平成 24 年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択事業	34
	地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化	34
IV. 協定等	自治体等との連携協力に関する協定の締結	36
V. 教員の活動実績等	2015年度 学部・学科別活動実績 ① 地域を対象とした教育活動 ② 地域を対象とした研究活動 ③ 地域を対象とした地域貢献/社会貢献活動	37
VI. 広報誌「つながる」	2015年度 CONTENTS	45

京都橘大学
地域連携実績集
(2015年4月～2016年3月)



はじめに



木下 達文
京都橘大学・地域連携センター長
(現代ビジネス学部教授)

地域連携センターの実績と役割

「京都橘大学地域連携センター」は、2014年4月に、それまで設置されていた「文化政策研究センター（設立は2000年。その後、2012年に「地域政策・社会連携推進センター」と改組）」をより発展的に展開させ、大学全体として地域社会や地方自治体・企業・NPO法人等と様々な連携事業を展開しています。また、各学部の教育・研究成果を社会に還元するエクステンション講座や、職業をもった人に専門的な学習の機会を提供するリカレント講座も毎年実施しています。当センターは、清風館2階にあり、「研究交流スペース」を設置しています。利用は、本学学生・教職員のみならず、学外からの来訪者の利用も可能であり、各種研究会・学習会等、自由な学習・研究活動に利用できます。加えて、文化政策、公共政策、現代ビジネス等に関する各種の基礎的資料が収集・整備され、利用が可能となっています。

山科地域から滋賀県、そして和歌山県との連携も強化

このように、大学としては長期に渡る地域連携実績を有しているため、昨年度は大きな組織改革もあり、これまでの活動をふりかえるために、文化政策研究センターができる以前にも遡り、過去20年間の活動記録を『京都橘大学 地域連携実績集（1994年度～2014年度）』としてまとめました。本年度からは各年度毎の活動記録をまとめていくこととし、本実績集として編集することになりました。最近の傾向としては、大学が4千名を超え、学部が5学部10学科となったことで、教員も学生も多様な形で地域と関わるようになったことがあげられます。とくに対象地域が、大学の立地する京都市山科地域のみならず、京都市中心部や滋賀県、さらには和歌山県との連携も始めています。授業においては2014年度から「地域課題研究」を開講し、学生が必ず地域で学び、地域で鍛えられる科目が展開しています。本年度特筆すべきは、地域連携センターの分室が京都市醍醐地域（醍醐中山団地）にできたことです。このようなランチ活動は、本学では初めての経験となりますが、なんとか軌道に乗せることができました。

多様に存在する地域課題にむけて

今後の課題としましては、地域からくる新規の要請をどう受け止めていくのかという点だと考えています。大学も通常事業をこなしつつ地域連携事業を行っています。現在でもこの実績集にあるように膨大な事業を展開しています。まずは現状を維持することが大事ですが、地域課題というのは多様に存在していますので、双方の思いが合致する接点をいかに見つけて、無理のない活動をいかに設計していくのかをしっかりと考えていきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2015 年度

京都橘大学における地域連携、この1年の歩み

2015 年	4 月	門川市長を招き、地域連携センター醍醐中山団地分室および国際シェアルームの開所式を開催。(4/6)
		現代ビジネス学部小暮教授、KBS 京都ラジオに出演。「地域と呼吸する－アーツの取り組み」を語る。(4/17・24)
		現代ビジネス学部谷口ゼミで観光学を学ぶ学生 19 人が、冊子『こだわり市場 2015. 春』を発刊。(4/20)
		第 47 回草津宿場まつり開催中、草津市役所さわやか保健センターでげん Kids ★応援隊が「たちばなちびっこらんど」を開き、多くのご家族が来場。(4/26)
		大津市老人クラブ連合会と本学との地域の健康づくりに関する連携がスタート。包括協定へ。
		看護学部教員および学生有志、老人保健施設「いわやの里」において、毎月 2 回の「いちごカフェ」を開催。
	5 月	「ラ・フォル・ジュルネびわ湖 熱狂の日・音楽祭 2015」にて、本学学生が、多数スタッフとして参加。(5/2・3)
		柳辻駅音の広場コンサート「ナイス・ミート in 山科」で、本学吹奏楽部が人気アニメメドレーの演奏を披露。(5/9)
		醍醐中山団地の「中山こども祭り」に、げん Kids ★ 応援隊が、参画。子供たちに遊びの場を演出。(5/10)
		「ルシオールアート・キッズ・フェスティバル」で、本学学生がボランティアスタッフとして活躍。(5/17)
		草津未来研究所の「社会実験」事業に、本学の「子育て支援のための意識調査および市民講座」が採択される。(5/19)
		伏見区醍醐地区社会福祉協議会「わかば祭り」で、醍醐西小学校の演奏会に本学吹奏楽部が出演。(5/23)
		心理臨床センター主催の「パパとママのこころ育て広場」がスタート。(5/23～1/23 年間 8 回開催)
		文学部主催・歴史文化ゼミナール「京都・人とモノの再発見」を東寺で開催し、好評を得る。(5/24～6/12・全 4 回)
		理学療法学科児玉准教授とアイシン精機㈱の共同研究【体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響】スタート。(5/1)
		ふれあい・大宅のイベント開催中、大圓寺集会所で、たちばな健やかクラブの出張健康相談を開催。(5/30)
		山科商店会主催「山科 3rd パルフェスタ」に本学吹奏楽部や裏千家茶道部が参加。(5/30・31)
		都市環境デザイン学生の卒業制作を展示していた地下鉄柳辻駅「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト」が終了。(3/1～5/31)
		6 月
	和歌山県那智勝浦町との連携による「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」がスタート。(6/1)	
	本学救急救命研究会 TURF の 3 回生 6 人が、山科消防署と連携し救命講習会の講師を務める。(6/1)	
	プライマリケア実習の授業で、看護学部学生が、山科区の高齢者約 150 人の体力測定・健康教育を実施。(6/4)	
	地域連携センター主催 看護学部教員による「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」をはじめで開催。団地住民に身体計測、血圧測定、健康相談を実施。(6/6)	
	伏見区醍醐支所主催、まちづくりを考える「おとなだいご塾」のメンバーが、地域連携センター醍醐中山団地分室見学のため来訪。(6/6)	
	本学の学生と教職員有志が、「山科区 2 万人まち美化作戦」に、町内会の人とともに参加し、まち美化に協力。(6/7)	
	地域連携センター主催 第 5 回橘セッション「地域連携センター醍醐中山団地分室開設記念ミニシンポジウム」を開催し、他大学からの地域連携の取組の報告を受ける。(6/10)	
	本学放送研究部と京都子ども守り隊～守るんジャー～が、特殊詐欺被害撲滅に向けた広報啓発用ショートムービーへの制作協力で、京都府警察より表彰される。(6/10)	
(公財) 大学コンソーシアム京都「未来の京都創造研究事業」に、小辻助教の「京都市におけるまちの居場所運営の継続要因及び終了要因の抽出」が採択される。(6/12)		
草津市の幼稚園教師の指導力アップのため、児童教育学科神谷教授、草津市立笠縫幼稚園で講演。(6/16)		

2015年	6月	看護学部判澤准教授が、(株)京都科学と共同で、排泄管理用の「おむつ交換トレーニングモデル」を監修者として作成。(6/19)
		看護学部と大津市老人クラブ連合会との包括協定にもとづく連携事業で、大津市内各地での体力測定会を行う。(6/26・9/25・11/30・3/24)
		文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の連携大学9校が、「初級地域公共政策士」資格制度創設に関する共同記者会見を開催。(6/30)
	7月	テーマは「輝(かがやき)」一今年7回目。清水焼の陶器を並べた「七夕陶灯路」を本学キャンパスで開催。(7/3)
		同志社大学佐伯順子教授を講師に迎え、女性歴史文化研究所シンポジウム「近代社会と女性の労働をめぐる諸問題」を開催。(7/11)
		文学部歴史学科南教授、滋賀県立守山高校のSGH課題研究ドイツ研修旅行に向けた「ドイツの歴史と文化」に関する講義を行う。(7/14)
		理学療法学科安彦助教と学生が山科区で腰痛学級を開催し、60歳～80歳代の男女に、腰痛体操を指導。(7/30)
	8月	現代ビジネス学部学生による「熊野再発見プロジェクト」が和歌山県那智勝浦町を訪問し、町内の行政・観光関係者と観光についての意見交換や提案を行う。(8/2～8/4)
		看護リカレント講座「高めよう実践力! Part 2」がスタート。第1回は、國森康弘氏を講師に迎える。(8/4～11/10 全5回)
		健康科学部主催の子育て支援市民講座&相談会を草津市民交流プラザで開催。心理学科日比野教授の講演や相談会を行う。(8/9)
		理学療法学科学生が宮城県石巻市でリハビリテーション複合サービス施設を訪問し、生活不活発病の予防活動や交流を行う。(8/16～21)
		現代ビジネス学部小暮教授と本学学生の川村竜生君が委員を務める「山科区民まちづくり会議」がスタート。(8/18)
		「第41回大津市老人クラブ大会」で、看護学部の沼本教授が健康寿命をテーマに講演し、豊かな老後のための自分史の執筆を提案。(8/28)
		本学救急救命研究会 TURF のメンバーが、今年も、京都市総合防災訓練に参加・協力。(8/30)
	9月	「やましなお誕生おめでとう事業」に協賛し、記念品として本学オリジナルボールペンを山科区へ提供。(9/4)
		「第1回山科区役所と京都橘大学との連絡協議会」を開催。(9/10)
		第1回、有識者による「京都橘大学山科醍醐地域教育懇話会」を開催。(9/10)
		健康づくりの調査研究として、理学療法学科の教員と学生が、滋賀県野洲市高齢者対象の体力測定を実施。(9/1～9/15)
		醍醐中山団地恒例の「敬老会」に、看護学部、演劇部、ボランティア団体の学生が多数参加し、体操や劇などを披露。(9/23)
		福岡女子大学の地域連携センターが、本学地域連携センターの醍醐中山団地分室を見学のため来訪し、意見交換を行う。(9/25)
	10月	明星大学の関 満博教授を迎え、現代ビジネス学部主催の経営デザインフォーラム「関西地域の活性化と産業振興」を開催。(10/3)
		介護老人保健施設「醍醐の里」で、本学地域連携センターが指導し、「秋祭り陶灯路」を実施。(10/4～10/7)
		JR山科駅前で開催された「やましな駅前陶灯路」で、教職員はじめ、まちづくり研究会メンバーが活躍。(10/10)
		理学療法学科の学生が、高齢住民を対象に「みんないきいき幸齢教室」を醍醐中山団地で開催。(10/10)
		都市環境デザイン学科のゼミ学生が、京都橘大学の完全オリジナル手帳「Techobana(てちよばな)」を企画制作。(10/21)
		京都橘大学が、京都市自治記念表彰「未来の京都まちづくり推進表彰」を京都市自治記念式典にて受ける。(10/15)
		異業種交流複合イベント「中信ビジネスフェア」にブース出展。看護学部教員による出張たちばな健康相談を好評開催。(10/14・15)
第48回橘祭看護学部教員と学生ボランティア49人が協力し、第11回たちばな健康相談を開催。参加者は290名。(10/24・25)		
醍醐中山団地、国際シェアルームの入居学生の「住民へのご挨拶会」を開催。箏曲部による演奏会や茶話会でなごやかに交流。(10/31)		
11月	東部文化会館における、文化・芸術の振興に寄与する人材育成を目的とする連携事業のため、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団と連携協定を締結。本学で調印式を行う。(11/5)	
	草津市公認「ゆるキャラ」たび丸が、本学キャンパスで、草津市のPR活動を行う。(11/11)	
	地域連携センター主催 第6回橘セッション「統合保育の現状と地域連携」を開催。(11/13)	

2015年	11月	げん Kids ★応援隊が、京都市より「きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰」を受ける。(11/15)
		理学療法学科安彦助教と、ヘルスプロモーションコースの学生が、京都博愛会病院で「転倒予防教室」を開催する。(11/15)
		心理学科の3・4回生が、「マーケティング調査演習の授業」で、草津駅周辺4店舗の来街者調査を行い、407名から回答をいただく。(11/21)
		理学療法学科ヘルスプロモーションコースの学生が、山科中央老人福祉センターにて腰痛予防を中心とした健康教室を開催。(11/27)
	12月	「大好き！やましな魅力発信プラットフォーム」の山科区と本学の共同運営がはじまる。(12/1)
		本学学生ラウンジで、本学教員学生による醍醐未生流いけばな講座の華展を開催。(12/2～8)
		文化政策学研究院院生の太田雅之さんが政策研究交流大会で京都府知事賞を受賞。テーマは「京都市における高齢者の居場所の課題と展望について」(12/6)
		醍醐消防分署が、醍醐中山団地町内会連合会と京都橘大学学生との合同防災訓練を実施。国際シェアルームの学生6名が参加。(12/6)
		開放特許を活用した、知財活用アイデア全国大会(西日本大会)に、本学学生チームが参加。(12/12)
		醍醐中山団地で、理学療法科の学生による「第2回みんないきいき幸齢教室」を開催。(12/19)
げん Kids ★応援隊は、近隣の小学生や保護者を招き、工作室でクリスマス飾りなどを作る恒例のクリスマス企画を開催。(12/19)		
高山ゼミ学生、京都産業大学ボランティアセンター職員を招き、「障害者支援・バリアフリー活動報告会」を開催。(12/26)		
関西ネットワークシステム(KNS)第51回定例会を本学にて開催し、KNSの方々との交流を深める。(12/26)		
2016年	1月	地域連携センター主催、看護学部教員による「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」の2回目を開催。(1/20)
		看護学部小坂橋教授による公開講座「生活にいかそうリラクゼーション～こころと身体を楽に過ごすために～」を地域住民対象に開催。(1/28)
	2月	本学と滋賀県が就職支援に関する協定を締結。県の学生向け情報提供サービスへの登録促進などに取り組む。(2/2)
		京都駅大階段駆け上がり大会に那智勝浦町観光協会と現代ビジネス学部3回生2名の混合チームで参加。また本学学生が観光事業PR隊として参加し、同地域をPR。(2/20)
		救急救命コースと看護学科、理学療法学科の教員・学生が医療救護ボランティアとして「京都マラソン2016」をサポート。また、ボランティア経験枠で、救急救命コース千田助教とTURFの学生深海百合さんがランナーとして参加完走。(2/21)
		心理学科永野ゼミ学生の「マーケティング調査演習」調査報告会が草津商工会議所で開催され、ニワタス・近鉄百貨店・エルティ932・平和堂など地元商店会の方々に来街者調査の結果を報告。(2/25)
		児童教育学科阿部助教が、山科のミュージックサロンYOSHIKAWAで、ガバレット「みほとしんこのCabaret Night」のライブ公演を2回行う。(2/26、3/10)
		山科経済同友会主催の学生交流イベント「山科夢舞台」に、本学学生が出演。立案・企画でも参画。(2/27)
		文学部歴史学科高久教授、滋賀県草津市講演会で、草津宿街道交流館において、「近世の道から近代の道へー滋賀県の道を中心にして」と題して講演。(2/28)
	3月	児童教育学科の阿部助教指導のもと、4回生12名が山科区の小野児童館において、オペレッタ「わらしべ長者」を公演。(3/4)
		「京あるき in 東京」で、登谷助教が『豊臣秀吉の京都改造～近世都市京都の誕生～』の題目で講演。(3/5)
		白川を創る会とおちゃのこ会主催の「夜のあおくす茶会」で、地域連携センターおよびまちづくり研究会の学生が、陶灯路を演出。(3/19)
		第2回「京都橘大学山科醍醐地域教育懇話会」および「山科区役所と京都橘大学との連絡協議会」を開催。(3/24)
		看護学部と大津市老人クラブ連合会との包括協定に基づく連携事業で大津市藤尾地区での体力測定会を実施。(3/24)

地域連携の主な事例

2015年度の表彰

地域で学ぶ教育実践

産学公連携による活動実績

その他の地域連携活動

受託研究・補助事業

■ 2015年度の表彰

きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰

地域コミュニティに貢献 げんKids★応援隊

人間発達学部児童教育学会有志

地域の人たちと楽しいイベントをつくる

げんKids★応援隊の活動は、今年度で7年目となります。運動あそびや室内でのものづくりを通して、子どもや保護者とのかかわりを深めるとともに、子どもを対象にした取り組みの企画・運営を通して、学生自身が成長することをめざして取り組んでいます。今年度は次のような企画を考えました。

- 5月 実験教室（ペットボトル空気砲・ブーメラン・スーパーボールなど）
- 7月 水遊び企画（水風船・水鉄砲・シャボン玉・ヨーヨーつり）
- 9月 山科おやじフェスタ（工作ブースを担当）
- 11月 下京子どもまつり（まつぼっくりツリー作り）、スポーツ企画（ドッジボール）
- 12月 クリスマス企画（プラバン・飛びだすカード・ツリー・リースの製作）



実験教室（ペットボトル空気砲作り）



水遊び企画（ヨーヨーつり）

地域の人たちとのつながりを大切に

山科地域の小学校でのキャンプ、地域の自治会が企画する地蔵盆にも積極的に参加し、地域の人たちとの交流を大切にしています。毎年依頼してくださる団体もあり、信頼関係が築けていると感じています。今年は、京都だけでなく滋賀県の草津市のお祭りで工作ブースの担当をし、活動範囲が広がることができました。

- 5月 草津宿場まつり（こいのぼり作り）
- 6月 勸修小学校の学内キャンプ
- 7月 勸修小学校の夏祭り
- 8月 地蔵盆（子どもが楽しめるリクレーション企画）
- 9月 山科団地祭り、勸修小学校のふれあいの集い

今年は、「きょうと地域力アップ貢献事業者」として表彰され、京都の地域力の向上に貢献した事業者の21団体の1つとして選ばれました。今後も地域とのつながりを大切にした活動を続けていきます。



草津宿場まつり（こいのぼり作り）



「きょうと地域力アップ貢献事業者」の表彰

■ 2015年度の表彰

『安全・安心 MAP』で山科警察署から表彰

京都子ども守り隊 ～守るんジャー～

京都橘大学ボランティア団体×山科警察署

山科警察署や地域住民と連携し、性犯罪防止のマップづくり

2016年1月12日(火)、山科警察署で、本学の京都子ども守り隊～守るんジャー～が、大宅・小野地区の「安全・安心 MAP」を作成したについて、山科警察署長から表彰され、また、この活動は京都新聞や毎日新聞にも取り上げられました。

守るんジャーは、日常の活動では小学校の登下校の見守り活動や、地域の行事へのボランティア活動を行っています。

今回、山科警察署の方から、柳辻駅と小野駅周辺での痴漢やストーカーなどの事件が多いので、協力して何か啓発活動はできないかと相談があり、守るんジャーのメンバーが警察の方と検討し、地域の安全 MAP を作成することになりました。

今回作成した「安全・安心 MAP」は、若い女性を対象に性犯罪への防犯意識を高めようと、守るんジャーのメンバーが中心となり地元住民の方や柳辻交番と協力して作り上げていきました。

親しみやすくわかりやすく、学生のアイデアで

MAP を作るにあたって街歩きを2回実施し、大学から柳辻駅までと、小野方面を回る2コースを回りました。

街歩きでは危険なところを現地で確認し、学生が頻繁に通る道や、実際に性犯罪が発生した現場付近を警察官の方から教えてもらいながら回りました。また、昼間の街歩きだけでは、夜間の状況がわからないので、夜にも街歩きを実施して、昼間は特に気にならないところも、夜には真っ暗になる場所があることを確認して歩きました。

この街歩きを踏まえて作成された MAP には、人通りが少なかったり街灯がなかったり、夜は真っ暗になるところなどを昼と夜の写真を並べて掲載し、地図と写真で視覚的にわかりやすいように、部員たちが工夫を凝らしました。

また、部員のアイデアで、学生に日常的に作成した MAP を携帯してもらえるようにと、MAP を印刷したクリアファイルも作成しました。このクリアファイルは、来年度の4月の新入生に配布されます。

メンバーは、「怖い思いをする女性を減らしたい」「イラストを入れて可愛いデザインになるよう工夫した。長く使ってほしい」という思いを込めて同 MAP を作成しました。



山科警察署で表彰式



警察官から話を聞く守るんジャー

■ 地域で学ぶ教育実践

地域の声を本学の教育改革に反映させる

京都橘大学「山科醍醐地域教育懇話会」

京都橘大学×(山科区役所+地元経済同友会+社会福祉協議会+山科区自治連合会+NPO団体+地元医療界+地元教育界+醍醐中山団地) など各界代表による懇談会を開催

本学と山科・醍醐地域とを結ぶ恒常的な「地・学連携」の場として

京都橘大学は1967年、京都市山科区大宅の地に創立以来、地元山科に根ざし、地域に貢献し、地域から支持される大学を目指してきました。そしてこれからも、様々な活動に取り組み、より一層その努力を重ね、地域にとってかけがえのない大学でありたいと考えております。その際大切なのは、大学として地域のみなさまの声に耳を傾け、真摯にご意見をお聞きしながら、大学の教育改革を進めていくということです。このような考えから、2013年度より、地元山科・醍醐地域の各界を代表する方々から、本学に対するご意見を拝聴し、それを本学の教育改革に反映するため、「山科醍醐地域教育懇話会」を開催しています。

今年度は、下記の方々に委員をお願いし、2015年9月10日(木)と2016年3月24日(木)の計2回開催し、さまざまなご意見とご提案をいただきました。

今後も、本学と山科・醍醐地域とを結ぶ恒常的な「地・学連携」の場として継続していく予定です。

2015年度「山科醍醐地域教育懇話会」委員名簿

堀池 雅彦	山科区長
川中 長治	山科経済同友会 会長
柳生 昌保	山科区自治連合会連絡協議会会長会 代表
温井 裕二	京都府立洛東高等学校 校長
吉川 彰	山科区社会福祉協議会 事務局長
木村 透	洛和会音羽リハビリテーション病院 院長
村井 琢哉	山科醍醐こどものひろば 理事長
仁 豊子	醍醐中山団地町内連合会 会長



懇話会の様子

■ 地域で学ぶ教育実践

世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み

京都世界遺産 PBL(Project Based Learning) 科目

文学部一瀬教授+遺産情報演習I (b)×醍醐寺×(公財) 大学コンソーシアム京都 [運営]

醍醐寺の歴史文化活動の全容から、パブリック化の提案を試みる

(財)大学コンソーシアム京都の「京都世界遺産 PBL 科目」に参加し、醍醐寺のパブリックな取り組みを観察・調査し、さらに広いパブリック化を模索する取組を提案しました。

醍醐寺には、京都最古の951年建立の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂宇が存在し、特に三宝院には桃山時代の襖絵の間の表書院もあります。下醍醐、上醍醐を含め100余りの堂塔がある広大な境内では、2月に「五大尊仁王会」、4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは有名です。

こうした行事だけでなく、醍醐寺のもつ歴史文化を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多様な活動プログラムがあります。私たちはそうした醍醐寺の活動を知り、その全容を観察・把握、理解し課題を発見し、さらに分析することで広く周知活用されるためのパブリック化の提案を試みました。

醍醐のしだれ桜を東北被災地へ

具体的には、現在行われている「醍醐寺てらこやプロジェクト」「醍醐寺観光大使」「京の杜プロジェクト」「少年少女の集い」などの取り組みの観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産をパブリック化する活動課題について、気づき、発見し、より深く関わりたいと思う人たちを誘発する新たな活動のアイデアなどを探りました。

今回、特に印象深かったのが、「京の杜プロジェクト」(真言宗醍醐派・住友林業・KBS京都などの連携事業)の一環として、醍醐寺で有名な太閤秀吉のしだれ桜をクローン化しその桜を東日本大震災の被災地である岩手県の小学校へ送ったというものです。そこで私たちは関係者である、醍醐小学校、宮古小学校を訪ね、先生や児童からクローンしだれ桜の話や交流のようすを聞きました。そして、お互いの小学生のニーズに応えられるように、醍醐のしだれ桜が東日本にひろがり未来に受け継がれるよう、つまり大きくパブリック化して大きな花を咲かす企画を考えてみました。

企画提案した内容は、崎山小学校、宮古小学校、醍醐小学校の2泊3日のお泊まり交流会です。桜の花咲く春という、普段では触れられないものに触れ、自分たちの校庭にあるクローン桜の親桜にも触れてもらいました。また、それぞれの学校で児童の大きく広げた手形とそれに祈り・感謝・思いやりを託した言葉や絵を描いてもらい、それをみんなで持ち寄り、それを花びらにみたくて大きなしだれ桜を作るといったプロジェクト、自分たちの学校の桜情報を交換しあう交流会を考えてみました。この提案、いかがでしょうか？



岩手県宮古小学校にて

活動を振り返って

今回、京都世界遺産 PBL 科目で本格的なインタビューを行う際に相手に合わせて会話、言葉遣いを考え、要点をまとめながら話すこと、質問をしなくてはならなかったことに、とても苦労しました。学校側への依頼書類の作成等も苦戦しました。

しかし、この授業に参加して醍醐寺の様々な取り組みをより近くで観察・ヒアリングを行っていくうちに、お寺のイメージが「硬い」というものから「親しみやすい」、「気軽に学びに行ける場」というものへ変わりました。醍醐寺には、あふれるばかりの多種多様なプログラムがあり、それらをよりパブリック化させていくことで今回私たちが感じたような効果が生まれてくるということを実感しました。

また、そのプログラムの中には、「祈り」という感謝の気持ちを忘れない、他者を思いやる気持ちなど、人が生きていく上でとても大切なことを根本に据えた取り組みが行われており、私たちもその精神に触れることで、毎回身を引き締められる思いで活動ができました。

■ 地域で学ぶ教育実践

京都市内のお店を学生のこだわり目線で見つけて紹介

小冊子『こだわり市場』発刊・Web版「こだわり市場」制作

現代ビジネス学部谷口知司ゼミの学生

京都の地域活性化につなげたい

「こだわり市場」は、2009年に『こだわり市場』のサイト (<http://www.kodawari-ichiba.net/>) を制作したことから始まったもので、学生なりの尺度で考えた「こだわり」を軸に調査した京都の店を紹介する活動です。京都に来た観光客に、隠れた名店を知ってもらうことで、京都の地域活性化につなげることを目的としています。現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の谷口知司教授のゼミで観光学を学ぶ学生が中心に学生会ツアーリズム研究会の活動として行われています。2013年11月に、小冊子『こだわり市場』の一冊目に続き、2015年4月に二冊目を発刊しました。これらの冊子は京都総合観光案内所（愛称：京なび）や京都の有名ホテルでも配布されました。また昨年に引き続き、京都新聞で紹介されています（2015年6月16日朝刊）。

上回生から下回生へと活動を引き継いでゆく

この活動は、谷口ゼミで「学んできたものを目に見える形にする」ことを目的に、紹介する店は、学生がまち歩きをして探し、ゼミでガイドブックなどに載っていないか、こだわりの基準を満たしているかなどを調べ、吟味して決定しています。こだわりの基準は、「①譲れないものを持っていること②特定のもの追求すること③自分の意思を貫きとおすこと」などです。

現在三冊目の小冊子「こだわり市場」の発刊（2016年4月完成予定）に向け、35店舗の取材を終え、写真の加工や紹介文の校正、地図の作成などの最終作業を行っています。またこれに引き続きWeb版『こだわり市場』にもこれらの新規取材店舗を掲載（2016年6月末予定）する作業にも取り掛かります。

2016年度も継続してこれらの活動を行っていくために上回生から下回生へと活動を引き継いでいきながら、新しい京都の情報を発信し、京都のあまり知られていない店を自分たちで発掘していくこととなります。



冊子は、京都駅ビルの京都総合観光案内所や市内のホテルなどで、無料配布しています。



■ 地域で学ぶ教育実践

地域情報も掲載、完全オリジナル学生手帳を制作

てちよばな!

京都橘大学オリジナル手帳 Techobana!

現代ビジネス学部木下達文ゼミ・研究開発プロジェクト×地元企業

京都橘大学における初めての学生手帳

これまで京都橘大学には学内に学生手帳が存在していないことから、他大学の学生手帳や一般の手帳の構造や冊子の編集に関する基礎研究を行いつつ、個性のかつオリジナル性の高い手帳の企画・デザインを利用者視点に立って学生自らが行いました。目的としては、新しいコンセプトによるオリジナル手帳の研究開発を行うことで、京都橘大学における初めての学生手帳を創出するとともに、利用する人に対して多様な学生生活のサポートを提供することです。

基本的に木下ゼミ生で企画を進めていき、途中途中で広く学内全体の意見を盛り込んでいくために、学内においてアンケート形式によるモニタリング調査を実施しました。最終的に 300 名程度の意見を集め、男女や学年、学科別に集約することで、多様な視点を反映した制作物となりました。

大学や地域への愛着にも繋がってゆく Techobana !

オリジナルな視点の一つに、大学の情報だけでなく、大学周辺の地域情報を多様に調べて掲載することで、生活に有用な情報を付したことがありました。メンバーがテーマを決め、お店等にヒアリング調査を実施し、内容に反映しました。いまひとつの視点として、各学科で特徴のある先生について 1~2 名をヒアリング等で決め、その先生のイラストとコメントを手帳の中に反映しています。

得られた情報と自らが考えたデザイン等を編集し、最終的にオリジナル手帳の制作を行いました。制作部数は 250 部です。完成した手帳は調整の上、大学生協での販売を行い、学生はその広報やポップ作成等での協力を行いました。

最終的な効果として、個性的なオリジナル手帳を研究開発することで、大学施設や授業概況をすぐに把握することができるようになるだけでなく、大学周辺の地域などの情報を掲載することで、日常生活に役立てられるようなものとなり、ひいては大学や地域への愛着が向上することに繋がっていくことが期待できます。



「こんなあったらいいなあ」を形にしました。ぜひ、愛用していただきたいです。



本学生協でも販売しています

■ 地域で学ぶ教育実践

草津市における来街者調査の実施

「マーケティング調査演習」の取り組み

健康科学部心理学科永野光朗教授 + 心理学科3・4回生×滋賀県草津市

実践的授業から学ぶマーケティング

健康科学部心理学科では、3回生配当科目として「マーケティング調査演習」を開講しています。心理学は実証的研究分野ですが、調査法などの方法論を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。心理学科での勉学を卒業後の職務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目と考えています。

昨年度の平和堂守山店における調査に続いて、今年度は草津市において来街者調査を実施しました。JR草津駅東口エリアの商業施設における4店舗（ニワタス、近鉄百貨店草津店、エルティ932、くさつ平和堂）の来店者を対象とした来街者調査を実施しました。具体的な授業のスケジュールと内容は以下の通りです。

【9月～10月】

①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習

②現地における情報収集（「草津市役所まちなか再生課」ご担当者様による講義、各店舗のご担当者様との打ち合わせ、調査場所の見学など）

【11月】 ①調査計画の立案と調査項目の作成、面接調査のトレーニング ②4店舗での調査実施

【12月～1月】 ①調査データの整理（コーディングと入力） ②統計分析ソフトウェアによるデータ分析、レポートの作成

2015年度の成果・実績 /402名の面接調査を実施し、活動報告へ

4店舗における調査により、各店舗の来店者計402名の方の面接調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の来店形態や来店目的など、②草津駅東口付近での立ち寄り箇所と購買品目、③買い物の不都合や希望するサービスなどでした。また各店舗からのご要望に応じて担当の学生たちが考案した質問紙も付加しました。

成果報告のために2016年2月25日に草津市において草津市役所関係の方々、各店舗の方々、受講学生、担当教員が出席して報告会を開催しました。また全体の結果をまとめた調査報告書を作成し、草津市役所および各店舗に提出いたします。

今回の結果を踏まえて、さらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。



草津市役所における担当者の方の講義



くさつ平和堂での面接調査風景

■ 産学公連携による活動実績

公営住宅のなかに大学の拠点を常設

醍醐中山団地における地域連携活動

地域連携センター分室×国際シェアルーム入居学生×京都市×醍醐中山団地町内連合会

地域住民と共にコミュニティづくり

京都橘大学は、京都市より京都市営醍醐中山団地の第11棟1階部分を無償で借り受け、学生や教員が住民の方々との交流や、子育て世帯や高齢者の支援等の地域貢献活動を行っています。公営住宅に大学の拠点（地域連携センター分室）を常設し、また、留学生と日本人学生と一緒に暮らす国際シェアルームを開設することにより、地域住民と共に地域コミュニティの活性化を目指す取り組みとして、2015年4月1日より開始されました。

学生からの活動希望や地域住民からの要望をふまえたイベントや講習を行う他、担当教員が地域住民の相談に乗るなどの活動を行っています。

活動には、国際シェアルームの入居学生や学内ボランティア団体、学内まちづくり団体、学内部活・サークル活動団体等が関わっています。

住民との相互理解を深める取組

定期的な活動としては、国際シェアルーム入居学生を中心とする本学学生や教職員が、夜間防犯活動や清掃活動、消防訓練等を団地住民の方々で行いました。

地域活性化の取り組みとしては、地域連携センターや学部が中心となり企画運営した敬老の日イベントや健康相談イベント（26頁参照）等を開催しました。また、学生が中心となって企画した脳力トレーニング・筋力トレーニング及び茶話会イベント（28頁参照）も定期的に行いました。

地域連携センター分室を週一開室し、担当教員と地域住民が交流し、団地のニーズや動向、課題を把握すると同時に、担当教員による団地内の巡回を定期的に行い住民との相互理解を深める取り組みを行いました。

挨拶や会話で治安が良くなったという声も

学生独自のイベントを開催することにより、今までに団地内のイベントには参加が少なかった住民も積極的に参加する機会が増加し、団地内での新たな交流が生まれています。住民の方からは、学生や他の住民との交流が増えたことにより、挨拶や会話の機会が増加し、治安が以前よりも良くなったという声も寄せられています。

団地との地域連携の取り組みを行っている京都文教大学、藤田保健衛生大学、福岡女子大学、福岡大学、関西大学大学院等とも学生や教職員と相互交流を行いました。

また、先進事例として日本全国より注目されたこともあり、国立青少年教育振興機構、大阪ガス株式会社、京都府私立中学高等学校連合会等が主催する研修会にて事例報告の講演を行いました。



消防訓練の様子



地域連携センター分室コミュニティルーム

■ 産学公連携による活動実績

滋賀県草津市との包括協定にもとづく連携事業

子育て支援・就学前教育サポートのとりくみ

京都橘大学×滋賀県草津市

本学と草津市（滋賀県）とは、本学の教育研究活動を通したまちづくり事業における、両者の密接な連携と相互協力のため、2014年12月に包括協定を締結しました。2015年度は、その実質的な開始年度となり、以下の連携事業に取り組みました。

（1）「就学前教育サポート事業」

①保育コンサルテーション

本学教員が、幼稚園、保育所の保育現場に出向き、保育者と共に子どもの不適応や保護者の問題等を、その背景や要員等について見立てを行い、解決の手立てや方策を考え、保育者のメンタル面を支援する取り組みです。

今年度は、健康科学部心理学科の日比野教授、濱田助教が、後期8月から2月まで、半年間にわたり、市内7園（計14回）を巡回し、保育者支援に取り組みました。

②保育者スキルアップ研修

市内公私立就学前施設の教員・保育士の実践力・専門性を高めるためのスキルアップ研修です。

本学からは、人間発達学部児童教育学科の神谷教授と久堀講師（非常勤）を派遣し、12月～2月まで、計3回の研修を実施しました。

③対人援助職セミナー

児童虐待防止や保護者の養育支援にかかる職員のスキルアップ研修です。健康科学部心理学科の松下准教授が担当し、本学を会場として2回開催しました。

（2）「幼稚園ステップアップ推進事業」

草津市が取り組む、市立幼稚園教員の指導力アップの取り組みです。今年度は、本学人間発達学部児童教育学科の神谷教授が支援し、公開保育や講演会を実施しました。笠縫幼稚園で開催された公開保育では、近くの用水路でザリガニを釣って一緒に遊ぶ活動をし、その後の講演会では、学びに向かう力を育むための保育実践の在り方について学び合いました。

（3）「草津市社会実験推進事業」（16頁参照）

同市が包括協定を締結している4大学を対象に実施した社会実験推進に、本学は今年度「子育て支援のための意識調査および市民講座」の企画で参加しました。担当は、心理臨床センター員の濱田助教（健康科学部心理学科）で、市内公私立の幼稚園・保育園に通う園児の父母を対象に、子育て支援に関するアンケート調査を実施し、その成果を市民に還元し、同市の子育て支援事業にも寄与しようとするものです。

2016年2月14日（日）には、その調査結果報告をかねた市民講座が、市内で開催されました。

産学公連携による活動実績

滋賀県草津市社会実験推進事業

子育て支援のための意識調査および市民講座

京都橘大学×滋賀県草津市

保護者の心理面を重視した子育て支援

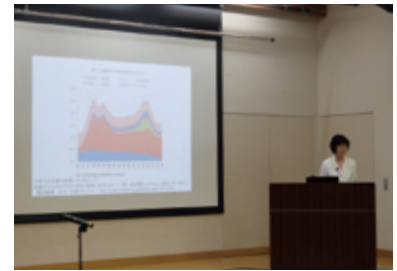
2014年に京都橘大学が滋賀県草津市と包括協定を結び、これに伴う連携事業の一つとして、2015年度に実施されたものです。子育てをめぐる環境が急速に変化するのに伴い、保護者の子育てに対する意識も変化しています。その意識に関する調査を行って臨床心理学的視点から分析し、保護者の心理面を重視した子育て支援に生かすことを目的としました。子育てに関する講演会と個別相談会、および保護者を対象とする意識調査からなっています。

2015年8月9日：子育て支援市民講座①
「誕生から6歳までの子育て」
(日比野教授)

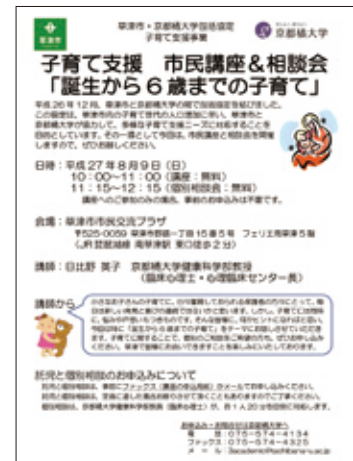
2015年9月～10月：意識調査の配布・回収

2016年2月14日：子育て支援市民講座②
「子育て意識調査から見てくるもの」
(濱田助教)

講座の1回目は心理学科の日比野教授、2回目は濱田助教が担当し、2回目で意識調査の結果を公表しました。それぞれ終了後には子育ての相談に本学教員（臨床心理士）が答える個別相談会も開催しました。講座には延べ約60名、個別相談会には13件の参加がありました。



子育て支援市民講座①講師の健康科学部日比野教授



子育て支援市民講座のチラシ

大規模なアンケート調査から明らかになったこと

意識調査の部分は、「子育て環境と子どもに対する意識調査（草津市版）」として、草津市の幼稚園・公立保育所・認可保育園にお子さんを通園させている保護者に、全10ページからなる質問紙を配布しました。2086世帯（全世帯の53.7%・父親1356名、母親2075名）から回答を得ました。各園に直接配布と回収のご協力を頂いたため、こうした調査としてはかなりの高回収率となり、大変貴重で良質なデータを得ることができました。分析の結果、主なところでは以下のようなことが明らかになりました。

- ・母親は、もう少し子どもと過ごす時間を減らしたいと感じている人が3分の1程度いるが、父親は9割の人がもっと子どもと過ごす時間を取りたいと考えています。
- ・ほとんど毎日家事をする父親は、3割弱で、ほとんどしない父親は3割を超える。
- ・母親の49%、父親の34%が子育てについて悩みがあると回答。
- ・母親の62%が理想の母親像について自分なりのイメージを持っているが、自分が理想の母親だと思っている人は23%にとどまる。自分は子育てに向いていないと感じている母親も43%に上る。

調査結果は、現在の子育て中の人の、子育ての実態やそれに関わる感情、夫婦関係および具体的な子育て支援の利用状況・希望について、様々な側面から明らかにしており、今後草津市の子育て支援事業にも十分役立てていただけるものと考えています。

産学公連携による活動実績

高齢者の健康づくり

高齢者を対象に健康促進活動

健康科学部理学療法学科教員と学生×滋賀県野洲市

体力テストを中心に、認知機能や心理機能の調査など 2 年間

昨年、健康科学部理学療法学科の学生と教員は、滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として、野洲市在住の高齢者を対象にした健康促進活動に取り組みました。2014年度は392名、今年度2015年は258名と、2年間で計650名の野洲市在住高齢者の方々に参加協力頂き、体力テストを中心に認知機能や心理機能を調査させて頂きました。この2年間の調査結果をもとに、「高齢者向け元気はつらつサポートブック」および「野洲市生きがいサークル参加高齢者の調査報告」の作成に学生と教員が、ともに取り組みました。



「高齢者向け元気はつらつサポートブック」と「元気はつらつサポートブック」



野洲市健康福祉センターにお伺いした際の測定・検査風景

学生が制作・出演「たちばな健康体操 DVD」で、健康支援に寄与



たちばな健康体操 DVD

さらに今年度は、理学療法学科3回生でヘルスプロモーションコース専攻の学生たちが自ら出演し、高齢者の方々を対象とした運動機能向上・維持を目的とした「たちばな健康体操DVD」を作成致しました。このDVDを野洲市の行政ならびに健康教室などの取り組みをされている各施設や団体様へ配布させて頂き、高齢者皆様の健康支援に寄与したいと、健康科学部理学療法学科の学生と教員一同考えています。

■ 産学公連携による活動実績

体力測定記録会への協力

大津市老人クラブ連合会との連携事業

看護学部看護学科教員 + 学生ボランティア + 滋賀県大津市老人クラブ連合会

昨年よりはじまった体力測定記録会への協力

大津市老人クラブ連合会が毎年行っている体力測定記録会に2014年度から看護学部教員が参加するようになり、2015年度は学生のボランティアも参加するようになりました。

体力測定記録会は、クラブ会員が参加しやすいように、毎年6月に和邇地区、9月に皇子が丘地区、11月に瀬田地区、3月に藤尾地区の4か所で行われています。測定項目は上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行を行い、体力年齢を把握し健康づくり、体力づくりに生かし、健康寿命を伸ばすことを目的行っています。



10m障害物歩行の様子

学生ボランティアの参加が参加者との会話を弾ませる

今年度、皇子が丘地区で4回生が参加し各測定項目の介助者として参加し、また瀬田地区では1回生が参加者とペアになり測定をサポートしました。

学生と参加者がペアで測定記録会を行うことは、当初人数が多くなることでの混乱が不安でありましたが、参加者は孫と接するように会話が弾みながら、楽しい測定会が実施でき、普段の測定記録会よりにぎやかで、スピーディーな進行となりました。

今後は、ボランティアではなく、地域高齢者と接しながら、健康の事が考えられる実習に位置付け、安定的に継続的に関わられるよう調整していくことが今後の課題だと考えています。



上体起こしの測定の様子



長座体前屈の測定の様子

産学公連携による活動実績

「フレキシブルな太陽電池を用いたスマートフォンケース」をプレゼン

開放特許 PBL の活動と知財活用アイデア全国大会

現代ビジネス学部学生有志 7 名×京都産学公連携機構×『知財活用アイデア全国大会』実行委員会
(株式会社ノーズフー・富士通株式会社・公益財団法人さいたま市産業創造財団・埼玉県産業技術総合センター)

地域学生が考え、地域企業へ提案—斬新なアイデアを競う

この活動は、『知財活用アイデア全国大会』への参加を軸とした、地域企業と学生を結び形での PBL (Project Based Learning) です。まずこの大会の趣旨は、大手企業等の開放特許*を活用した商品アイデアを地域の大学生が考え、それを競い合うというものです。その商品アイデアを地域の中小企業に提示し、地域支援機関がそれをサポートしてブラッシュアップを図り商品化を目指します。これにより中小企業の連携推進や、知財を活用した商品開発を促進し、地域の活性化を図る目的を持つものです。本学では課題発見・解決型の実践的学習=PBLとしてこれに取り組み、企業との対話、討論やプレゼンテーションをはじめとする学生の実践的能力や意識の育成を目指しました。

※ 諸事情により使われていない大手企業の特許を、この大会用に数件開放するもの。

2 度のブラッシュアップ会で、アイデア案をプレゼンテーション

2015 年春、京都産学公連携機構を支援機関としてこの大会にエントリーし、京都地域として初めての参加*となりました。参加学生はゼミや授業の枠に縛られない有志の公募とし、7 名 (3 回生 3 名、2 回生 4 名) のチームで活動しました。

5 月 2 週目から実質的な活動を開始、6 月 3 日に連携機構主催で「キックオフ会」が開催され、開放される特許が後日分と合わせ 12 件発表されました。本学チームではこれらの特許を用いたアイデア案を立ち上げ、7 月 22 日と 10 月 13 日の 2 回、連携機構主催「ブラッシュアップ会」でプレゼンテーションをして、各界の審査員からご意見をいただきました。それをもとに最終的には「フレキシブルな太陽電池 (JAXA 特許) を用いた充電機能付き手帳型スマートフォンケース」という商品提案に絞り込みました。また、商品ニーズのエビデンスとして、関連市場の規模や動向の統計資料集めや、商品の主ターゲットである学生層へのアンケートとその分析を実施しました。大会までに計 26 回 (各 2 時間程度) のミーティングを行って準備を進め、専門業者によるプレゼンテーション講習会、学内での模擬発表も実施しました。

※ 京都学園大学と京都橘大学の 2 校。

西日本大会出場、京都市内企業との連携のはじまり

12 月 12 日、キャンパスプラザ京都にて本大会 (西日本) に出場*、結果的に残念ながら上位 3 つの表彰チームに食い込むことはできませんでしたが、当日の本学チームのパフォーマンスは最大限の力を発揮し、成長を大いに感じられるものでした。なお、大会を契機に市内の 1 社と連携が始まり、現在この PBL 活動は次のステージに入っています。大会の本来の目的=商品アイデアによる地域企業の活性化に向けて、なお活動を継続中です。

※ 「全国大会 (西日本)」は、関東の出場校が多いため「全国大会 (東日本)」と分けて開催され、東日本入賞・上位校が再び西日本大会に参加する変則的な形となった。



大会でのプレゼンテーションの様子



本番前、意気込むメンバーたち

産学公連携による活動実績

ゼミ学生と京都市職員が協働

京都市事務事業評価サポーター制度への参加

現代ビジネス学部現代マネジメント学科阪本ゼミ(3回生)×京都市役所

公共経営を学ぶゼミと現場で働く公務員との協働

行政機関の活動を客観的に評価し、その結果を行政運営に反映させることを目的とする事務事業評価は、近年の行財政改革においてその重要性を増しています。京都市が実施している「事務事業評価サポーター制度」は、この事務事業評価のプロセスに学生が参加し、学生の視点から評価票の改善や事業への提案を行うことで、事務事業評価制度の市民への浸透を図るとともに、その運用面での改善を図ることを意図したユニークな制度です。

この取組にゼミとして参加したのは、その対象の性格上、机上の学習のみになりがちな公共経営を学ぶゼミにおいて、公共部門の役割とは何か、行政組織はどのように動いているのかを、事務事業評価を通じて学生たちに実感させることであります。また、受講生には公務員志望者も多く含まれているため、実際に現場で働く公務員の方々と話をする機会をもつことで、公務員としての心構えや公務員の仕事の現実を知ることでもできるのではないかと考えました。

学生の視点から事業の改善提案

前期中に 150 近い事業の中から対象とする 15 の事業を選定し、まず、それらの事務事業評価表について、個々の学生に検討を行わせ、10 月以降には、これらの事務事業評価票に基づいて、京都市庁舎内で、所管課からのヒアリングを 3 回に分けて行いました。このヒアリングの際には、市役所職員の中から選ばれた庁内サポーターの方々と個々の評価票の問題点について議論を行いました。

以上のヒアリングや議論を踏まえ、「自転車ルール・マナーの『みえる化』」「屋外広告物の違反指導等事業」「空き家対策推進事業」の 3 つの事務事業を選択し、事務事業評価票の問題点や改善すべき方向について、さらに詳しく検討し、第 2 回事務事業評価委員会での発表に向けてスライド資料および発表原稿の作成を行いました。そして、庁内サポーターの方々を前にして、一度リハーサルを行い、その際に出された意見をもとに発表内容のブラッシュアップを行ったあと、本番に臨みました。

活動成果の事務事業評価委員会への報告

制度の性質上、発表内容や発表方法を競い合うといったものではないため、成果や実績を数値的に示すことは困難ですが、その発表内容は事務事業評価委員の方々から高く評価されました。同時に、学生からは、市役所の仕事かどのようなものか実感することができたといった意見や、当初の目的には含まれていませんでしたが、行政の視点から京都という地域の実情について知ることができたという感想が得られました。

なお、発表に用いたスライド資料については、京都市の Web サイトに掲載されており、質疑応答についても、平成 27 年度第 2 回京都市事務事業評価委員会(摘録)にその概要が示されています。また、参加した学生の感想の一部が、平成 28 年度事務事業評価サポーター制度募集要項に掲載されています。



第 2 回事務事業評価委員会での発表の様子



庁内サポーターの方々との議論の様子

■ 産学公連携による活動実績

東京の GU 本社での最終報告会へ進出

GUの会社案内作成等の産学連携 PBL 活動

[今井ゼミ + 片岡ゼミ + 高山ゼミの有志 6 名] × NPO 法人グローバル人材開発センター × 株式会社ジーユー (GU)

活動の概要と取り組みの経緯 / 学生の立場から企業の魅力を発見し会社案内制作へ

今井ゼミ・片岡ゼミ・高山ゼミの有志 6 名によりプロジェクトチームを編成し、PBL (Project Based Learning) と呼ばれる活動を通じて会社案内の作成を行いました。

PBL とは「課題解決型学習」を意味しており、企業が抱える課題やプロジェクトに対し、学生が主体的にその解決策を考案・提案することで、課題解決力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力など、実践的な力を身につける学習方法を指します。本 PBL では、「NPO 法人グローバル人材開発センター」の協力のもと、ファーストリテイリング・グループである株式会社 GU の会社案内を作成しました。通常、会社案内は企業が発信したい情報を学生へ伝えるという性質のものですが、今回作成した会社案内は、学生の立場から企業の魅力を発見し、その情報を学生視点で加工して盛り込み、GU という企業を、会社案内を通じて学生へ発信するものとなりました。

また、この PBL ではコンペ形式をとっており、2015 年 11 月の中間報告会において、参加する 5 チームが GU の方々の前で報告を行い、このうち上位 3 チームが 12 月に東京の GU 本社で行われる最終報告会へ進出しました。この最終報告会での報告の結果、優勝したチームが作成した会社案内の草案が、GU の会社案内として具体化されていくこととなります。

活動内容 / 会社案内作成へのプロセスは…

PBL での具体的な会社案内作成プロセスは、以下のとおりになります。

- ① チームでの課題を共有した後、会社案内のターゲットを決めるためのアイデア出し、他社採用パンフレットやアパレル業界の研究を実施。ターゲット決定後さらにコア・ターゲットを決定するため、学生へのアンケート調査を実施し、調査結果を分析
- ② 会社案内のコンセプトならびに記載内容・レイアウトを検討。その上で、中間報告会へ向けた報告資料を準備する。
- ③ NPO 法人グローバル人材開発センターにて中間報告会
- ④ 中間報告会の反省（プレゼン内容と方法に関する課題の明確化）を踏まえて、会社案内（案）ならびに最終報告会に向けた報告資料を作成。
- ⑤ GU 東京本社での最終報告会

活動成果 / 東京本社での最終報告会は大きな財産

今回の PBL は、他大学のチーム 4 チームと対抗するコンペ形式で行われましたが、京都橘大学のチームは中間報告会を突破し、東京本社での最終報告会で報告することができました。最終的な結果は 2 位に終わりましたが、会社案内作成の一連のプロセスについて考え抜いたこと、さらには、プレゼンテーション資料を作成し、社長をはじめとする GU の社員の方の前で報告するという貴重な経験を積むことができたことは、参加学生にとって大きな財産になったのではないかと考えています。



最終報告に向けての検討の様子

■ 産学公連携による活動実績

熊野地域の観光や地域振興に協力し、地域の魅力を発信してゆく

京都橘大学・熊野再発見プロジェクト

京都橘大学木下達文ゼミ学生+学内団体「まちづくり研究会」×和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

那智勝浦町と京都橘大学との本格的な地域連携がスタート

2014年10月2日に和歌山県東牟婁郡那智勝浦町と京都橘大学とで観光・まちづくりに関するひとつのミーティングが行われました。それ以前にもコーディネーターを務める畑中卓也氏との関係は文化政策学部創設時からの歴史がありましたが、そのミーティングを契機として、2015年度に入り本格的な地域連携を目指し、熊野地域を支援するためのプロジェクトを2015年6月1日に発足させました。それが「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」です。熊野地域は世界遺産等を有しながらも、都心から遠距離に立地することもあり観光客の伸び悩みが深刻な上、2011年の台風被害の影響でも大きな問題を抱えています。そこで、大学の地域連携事業の一環として熊野地域の観光や地域振興について協力をしていくこととし、具体的に現地に行くなどして、地域の魅力を発掘するなどをしながら、可能な範囲で地域再生の協力をしていくことを目的としています。

本事業は、現代ビジネス学部木下教授が担当する大学間連携共同教育推進事業の「地域資源を利用した第6次産業的ビジネス展開プログラム」として実施している都市文化資源論の受講生を核とし、広く学内全体に認知を広げるとともに、関心のある人にはプロジェクト参加を促していき、多様な視点から熊野地域の現状と魅力・課題について考え、かつ現場の人と交流していく中で学生の貴重なフィールドワークやプレゼンテーションの機会を創出できればと考えています。

第1回「熊野再発見ツアー」を実施し、行政や観光関係者に企画を発表

「再発見」という言葉の持つ意味として、学生を主とした若い世代の感性からみた地域の魅力を発見するという視点とともに、それらの感性を地域に還元することによって、地域の人々が自分たちのまちを再認識するという視点もあり、双方の人々が新しい地域を見つめあうというコンセプトを込めてつけています。

2015年度は、第1回目となる「熊野再発見ツアー」を実施しました。京都橘大学の学生24名が、8月2日から4日までの3日間、那智勝浦町を中心とした地域をグループに分かれてめぐりました。初日には、町内にある「Kumano Cafe」において寺本眞一町長をはじめとした町の人たちとの交流会を実施し、2日目は7つのグループに分かれ、そこで見聞きした内容を記録して回りました。最終日には行政や観光関係者に向けて自分たちの企画も交えて発表するという機会を得ました。那智勝浦町には様々な資源がありますが、マグロを押しすぎているなど、課題も多く見出されました。

今後も継続的に連携をとり、お互いのメリットを考えながら具体的な事業を可能な範囲で進めていくことを目指しています。



那智の滝に集合！京都橘大学・熊野再発見プロジェクト

産学公連携による活動実績

医学・看護教育用シミュレータ

おむつ交換トレーニングモデルの開発

看護教育研修センター 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア認定看護師 判澤 恵准教授・宇野 育江講師×株式会社京都科学

排泄ケアで、精神的ダメージをあたえないように

私達は2015年に株式会社京都科学の協力によって「おむつ交換トレーニングモデル」を開発しました。人は最期まで自力でトイレに行きたいと願いつつも、高齢による排尿行動の生理的な変化は避けては通れません。止む無く他者に排泄ケアを委ねざるを得ない状況は来ます。排泄は羞恥心を伴うため、人知れず悩んでいる人も多いのです。老健施設など入院・在宅を問わず多くの場面で排泄ケアを必要とする対象者は、状態の軽重を問わず潜在的にも不特定多数存在しているとの推測は容易です。

皮膚・排泄ケア認定看護師は創傷ケア・オストミーケア・失禁ケアを専門として排泄に関わる活動をしています。しかし、排泄ケアは特別なものではなく看護・介護担当者のすべてが昼夜を問わず実施している重要で人としての尊厳を護るケアです。

何らかの原因で自己の意志によって排泄がコントロールできなくなった場合、タイプはどうあれ「おむつ」と呼ばれる排泄物を受けるものを装着することになります。しかし、適切に装着されていない場合、おむつの外に排泄物が漏れ出し、大変なことになります。失敗を経験させることは着用者の精神的なダメージが大きいのです。

新人看護職の初期研修でも活用

どのようにおむつを装着すれば漏れを予防でき、快適な装着になるか。人による練習実験は倫理的に不可能なので、装着技術を習得するモデルを作成できないかと考えました。株式会社京都科学にお願いし、透明ボディを第一に考え、その後、臀部の形状、足の動き、尿道口の位置など試作を重ねました。担当者は臨床現場の状況をリサーチし、性差なく漏れの問題が多いこと、また排泄ケアで悩んでいる看護職が多いことも明らかになりました。

モデルは排泄物の流れやおむつへの吸収具合などが観察できる透明ボディで、排泄口も解剖学的な位置に近づくよう工夫し、すべて可視化しました。これによって、おむつの装着法が不適切だと排泄時即座に漏れが発生することがわかります。ポイントを押えて装着すると排泄物が漏れることなくおむつに吸収されることが理解できます。モデルは空気注入で調整可能のため使用や収納が手軽です。

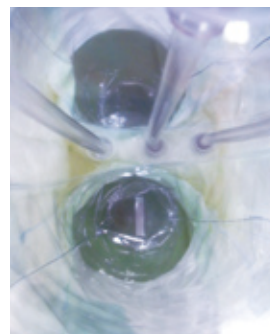
臨床現場では新人看護職の初期研修で活用されるようになりました。今後看護・介護の基礎教育でも取り組みが促進し、対象者が不安なく過ごせる一助になればと願っています。



おむつ装着後も、排泄物の流出状態、おむつの位置など、観察が容易



おむつ装着のポイントがわかりやすい



排泄物の吸収や漏れの状態が一目瞭然

産学公連携による活動実績

「体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響」についての共同研究 アイシン精機株式会社との共同研究

健康科学部理学療法学科・兒玉隆之准教授×アイシン精機株式会社

活動の概要

高速道路運転では、運転中に年間2万件を超える事故が発生しています。中でも、居眠り運転のような前方不注視を原因とする事故は、全事故のほぼ半数を占めるとされます。この居眠り運転を引き起こす「眠気（覚醒水準の低下）」の原因は、不変的な走行環境（単調な景色など）や車両特性（操作の簡素化など）といった外的要因による受動的な刺激量の低下と、生体リズムや同一姿勢から生じる疲労といった内的要因による能動的な刺激量の低下によるものとされます。そのため、どのような手段が覚醒水準の維持向上に効果があるのかについて検討することが重要な課題であると考え、京都橘大学はトヨタグループのアイシン精機株式会社との共同研究により、運転時の眠気解消技術の開発に関する基礎研究に取り組んでいます。本研究を通じて、高速道路での運転や長距離運転における事故軽減をめざしています。

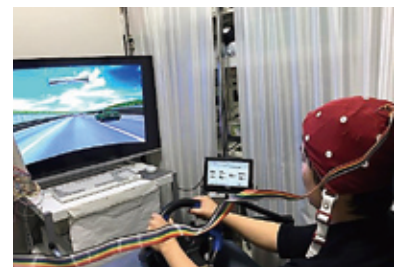
活動の内容

本共同研究が開始される以前から、アイシン精機株式会社では運転時の眠気解消技術の開発に関する研究が、さまざまな受動的・能動的な覚醒手段を用いて取り組まれてきました。そのなかで、ドライビングシミュレータ実施時に体幹部骨格筋腱部に対し特定条件の『振動刺激』を付与することで眠気解消効果が得られる可能性を見出しました。しかしながら、質問紙法による心理反応（主観的眠気の変化）のみに基づいた評価結果の検討であったため、実際に脳内の覚醒水準に変化が起きたのかという点に関する生理学的視点での評価性に欠けていたため、その生理的脳内メカニズムを把握するために、「振動刺激による運動錯覚時の脳内神経活動解明」を研究テーマとしている研究代表者（健康科学部理学療法学科 兒玉隆之准教授）との共同研究が開始されました。

これまでの検証結果から、ドライビングシミュレータ実施中（図1）眠気が高くなった際、注目する特定条件（対象筋や周波数条件）での振動刺激にて強い覚醒状態がもたらされ、その際の脳内神経活動が明らかになりつつあります。

〈今後の目標・課題〉

眠気解消の客観評価と関連する脳賦活領域をより詳細に解明し公表（学会および論文）すると共に、脳内領域の賦活特徴に基づく振動刺激条件の最適化を図ることを目標とします。



（図1）

2015年度の成果・実績

- 特許（発明の名称：「運動誘導装置」）出願済み

〈期待される効果〉

本研究の成果は、侵襲度の低い生理指標（脳波）を用い、生理反応の側面から眠気解消効果を実証する信頼性および再現性の高い振動刺激条件を提案する初めての研究となります。また、本研究結果から眠気解消へ対する振動刺激の有用性が証明されれば、居眠り運転による運転事故を防止するための手段や技術の開発への一助となる可能性が期待されます。

- ▶ 研究者名：兒玉 隆之（研究代表者） 京都橘大学 健康科学部理学療法学科准教授
山口 秀明 アイシン精機株式会社 基礎技術開発部
- ▶ 活動開始時期：2015（平成27）年4月から継続中
- ▶ 連絡先：kodama-t@tachibana-u.ac.jp

■ その他の地域連携活動

年々イベントの規模が広がっています

やましな駅前陶灯路の取り組み

京都橘大学×山科区 + 清水焼団地協同組合 + 地元自治会連合会 +
山科区老人クラブ連合会 + 駅前商店会

あかりの道で、地域の活性化に貢献

JR 山科駅周辺で行われる清水焼を用いたあかりイベント「やましな駅前陶灯路（とうとうろ）」は、2008 年から始まり 2015 年で 8 回目になります。

陶灯路とは、京都・山科地域の伝統産業などを使ったあかりイベントであり本学と地域の連携活動から生まれた企画です。京都市山科区の西に位置する京都・山科清水焼団地で生産されている清水焼の器を主に使用し、その器の中に水、切子、ロウソクを入れたものである「陶灯器（とうとうき）」を様々な形に並べ、あかりの路をつくります。

山科地域のさまざまな場所で行われている陶灯路の一つであるやましな駅前陶灯路は、本学をはじめ、京都シティ開発（株）、清水焼団地協同組合、山科区役所、地元自治会連合会、山科区老人クラブ連合会、駅前商店会などが連携し、伝統産業の振興や地域の活性化に大きく貢献しています。

年々イベントの輪がひろがる

第 8 回のテーマは「継ぐ」で、山科の文化や祭などの伝統を受け継いでいこうという意味が込められています。約 200 名のスタッフが参加し、各エリアには本学の現代ビジネス学部等の学生がデザインした「はねず踊り」「山科義士まつり」「清水焼の郷まつり」「四宮祭り」の 4 つの山科を代表する祭をイメージした灯りが並べられました。また、救急救命研究会の学生も参加しイベントの安全確認に貢献しました。さらに、メイン会場では、オカリナアンサンブルや二胡などの生演奏が行われるほか、山科商店会では、同時開催として「やましなバルフェスタ」が開催され、年々イベントの規模が広がってきています。

実践を通じた学生の学びの場として

アンケートからは、「また来たい」という回答が 90%あり、山科のイメージアップとなっています。

陶灯路に参加した学生からは、「地域の方と一緒にイベントをつくることは大変やりがいがある」「大学だけでは学ぶことができないことが学べる」など、実践を通じた学生の学びの場となっています。

今後も、山科の地域諸団体と連携し、やましな駅前陶灯路を通して地域活性化に取り組めます。



さまざまなデザインと色の陶灯器



あかりの路を静かに見つめる

■ その他の地域連携活動

「出張たちばな健康相談」のスタート

たちばな健康相談の活動

看護異文化交流・社会連携推進センター×看護学部教員＋学生

大学内の活動から地域に出向く活動へ

「たちばな健康相談」は、地域住民の方々の健康支援を目指して、看護学部教員と学生ボランティアが協力して実施している社会貢献活動です。看護学部開設の年から大学祭において実施し、2015年度で11回目を迎えました。これまでの活動で培ってきたことをもとに、今年度から大学内での活動だけでなく、大学から地域に出向いて活動する「出張たちばな健康相談」の実施も本格的に始めました。

より多くの地域住民の方に参加いただき、参加者個々の健康の保持・増進につながる活動にしていきたいと考えています。



醍醐中山団地での第1回たちばな健康相談の様子

1. 第11回たちばな健康相談

今年度も、大学祭の2日目（2015年10月25日（日））に実施しました。実施内容は、健康相談のほか、身体計測（身長、体重、腹囲、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、ストレスチェック、塩分チェックなどです。今年度は、新たに血管年齢測定、脳年齢測定を追加して実施しました。参加者の中には、何度も参加していた方も結構おられました。最終的な参加者は、252名となり、過去最高の人数となりました。



会場の様子



脳年齢の測定

2. 出張たちばな健康相談

今年度、山科区の大圓寺集会所、伏見区の醍醐中山団地集会所への出張を実施しました。

高齢サポート・大宅（京都市大宅地域包括支援センター）主催の居場所づくり事業「ふれあい・大宅」での活動依頼をいただき、2015年5月30日（土）に山科区大宅地区の大圓寺集会所への出張を行いました。身体計測、血圧測定、骨密度測定、健康相談などを実施させていただき、当日会場に集まった28名全員に参加いただきました。

2014年10月に本学は、京都市及び醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的として連携協定を締結しました。それに伴い、看護学部では、「出張たちばな健康相談」の活動を中心に展開していくことになりました。2015年6月6日（土）に醍醐中山団地集会所で第1回の出張を行い、41名の方に参加いただきました。その後、2016年1月20日（水）に第2回の出張も行っています。参加者からは、「楽しかった」「年に数回実施してほしい」「食生活のアドバイスをいただき、明日から気を付けてみようと思う」などの意見、感想をいただき、今後も継続してゆく予定です。

■ その他の地域連携活動

大学を拠点に様々な地域へ出向くアウトリーチ活動

たちばな健やかクラブの活動

看護学部教員+学生ボランティア×山科区社会福祉協議会

地域とのつながりを生かした社会貢献活動

看護学部は、開設以来、実習・演習を通して築いてきた“地域とのつながり”があります。このつながりは、看護学部の特徴であり、大きな財産でもあります。今回、この特徴を生かした社会貢献活動を実施していきたいと考え、2014年9月より「たちばな健やかクラブ」の活動を開始しました。

たちばな健やかクラブは、本学が位置している山科区を中心とした地域に暮らすあらゆる健康レベルの人を対象とした様々な看護介入プログラムを開発し、対象の健康の保持・増進を目指して取り組む活動です。活動は、拠点となるコミュニティ空間を大学内に整備し、拠点での活動を実施するとともに、アウトリーチ活動として、様々な地域に出向き「出張たちばな健やかクラブ」を実施する予定です。



今後は、学内拠点の活動と住民のニーズを反映してゆく

今年度は、地域住民のニーズを知ることや、この活動の周知を目的として、アウトリーチ活動の「出張たちばな健やかクラブ」に力を入れて実施しました。

「出張たちばな健やかクラブ」は、山科区社会福祉協議会などが中心となって運営している2か所のフリースペース（清水焼団地センター「みちくさの家」、山科総合福祉会館2階）で健康相談を中心とする活動を実施しました。活動は、メンバーの教員と学生ボランティアにも参加してもらって実施しています。

今後は、学内の拠点となる場所を整備していき、学内拠点での活動も合わせて実施していく予定です。また、現在、健康相談中心の活動ですが、地域住民のニーズを反映した幅広い活動ができる準備をしていくことを計画中です。

2015年度の活動日

場 所	実 施 日
清水焼団地センター 「みちくさの家」	① 2015年 7月 9日 (木)
	② 2015年 10月 8日 (木)
	③ 2016年 3月 10日 (木)
山科総合福祉会館 2階	① 2015年 5月 27日 (水)
	② 2015年 10月 7日 (水)
	③ 2015年 12月 2日 (水)



骨密度測定



健康相談

■ その他の地域連携活動

「たちばなドリームチャレンジ」採択

みんないきいき幸齢教室

理学療法学科学生×地域連携センター分室

被災地や地域に密着した活動が目的

地域連携センターが分室をおく、醍醐中山団地の集会所で、10月10日（土）と12月19日（土）の2回にわたり、「みんないきいき幸齢教室」が実施されました。

この催しは「たちばなドリームチャレンジ」採択団体、CRC (Catch & Release Regional Contribution) プロジェクト（代表・理学療法学科3回生山崎美咲さん）が企画し、プロジェクトメンバーを中心とする理学療法学科の学生15人、団地の住民を中心に地域の高齢者15人など、各回、30人を超す方々が参加しました。

「たちばなドリームチャレンジ」は、学生から応募される主体的な企画を選考し、本学が資金面で援助する取り組みで、CRCプロジェクトは「被災地や地域に密着した理学療法士の役割や活躍を知ることによって理学療法士の職域や地域における理学療法士の役割について理解し、地域のリハビリに貢献できる活動をしていくこと」を目的とした活動で採択されました。

東北石巻では、地域リハビリテーションのボランティア活動

プロジェクトのメンバーたちは、東北石巻で地域の高齢者・障害者の「自立」をサポートするための活動を行っている一般社団法人「リぱらす」を訪れ、現地で理学療法士の活動を見学・体験し、地域リハビリテーションへの理解を深めてきました。

「みんないきいき幸齢教室」では、日頃学んでいる理学療法の専門知識や技能を地域に還元する取り組みとして、団地の住民に協力を依頼し、ストレッチや筋力トレーニング、転倒予防教室など高齢者が楽しめるレクリエーションを体験してもらいました。

学生と地域の住民が触れあう和気あいあいとした雰囲気の中、終始笑顔が絶えず、参加者からも「楽しかった」「次はいつするの」との声が聞かれ、大好評のうちに2回の企画を終了しました。

企画した学生にとっても、地域の住民との交流や、企画・運営を通じた学年を越えた協力など、今後の活動への励みや手応えが得られ、実りの多い催しとなりました。



学生と団地住民との交流の様子



幸齢教室には、笑顔があふれます

■ その他の地域連携活動

京都マラソン救護ボランティアに参加

救急救命研究会 TURF の活動 ～地域防災への参加～

救急救命コース学生・教員 + 夏目専任講師×京都市・山科区ほか

京都マラソンの救護ボランティア

京都市で開催される最大のイベント、京都マラソンでは、学生が担当する救護ボランティアへの参加はもとよりボランティア研修会での心肺蘇生法指導等を行いました。

2016年2月21日(日)、京都マラソンの医療救護ボランティアは、救急救命研究会の部員のみならず京都橘大学の救急救命学系、看護学部、理学療法学科の学生有志が参加しました。この医療救護ボランティア参加は本学教学理念である「自立・共生・臨床の知」を実践するに最適な場であり、参加した学生たちからも高い評価を得ており、第1回大会より参加学生数は着実に増加しています。第5回大会の本年は、救急救命学系85名、看護学部30名、理学療法学科28名、教職員17名と医療救護ボランティアでの学生ボランティア中約96%が、本学の学生が占めているところをみても本学学生のモチベーションの高さが見て取れるものです。

また、救急救命研究会は医療救護ボランティア参加学生研修会において、心肺蘇生法等の指導を第1回大会より担当し、京都マラソン事務局、京都府医師会の高い信頼度を得ています。

地域防災の一翼を担える存在に

本研究会は、救急救命士の国家資格取得をめざす救急救命コースの学生が主体となり、コース開設初年度の2008年度から同好会として活動を開始しました。地域連携では、まず心肺蘇生法・応急手当法の普及を考えましたが、年を追う毎に地域との交流が深まり、各種イベントの救護や防災教育などを期待されるようになり、今では地域防災の一翼を担える存在になれたと自負しています。

■ 2015年・救急救命研究会の地域連携活動実績について

① 心肺蘇生法・応急手当法指導

ア 山科区大宅学区防災訓練 心肺蘇生法と応急手当法の各体験ブースを設置し、避難訓練中の各町内会の方々を対象に実施。心肺蘇生法ブースでは成人の胸骨圧迫法およびAED使用方法、応急手当法ブースではケガによる出血を防止する止血法、骨折時の固定法、血液や体液などからの感染を防止するための感染予防法などを体験して頂きました。

イ 三条通り商店街ふれあい祭り 成人、小児、乳児の心肺蘇生法(胸骨圧迫:心臓マッサージ)とAED使用方法の体験ブースを開催しました。

ウ 音羽草田町西自治会応急手当法講習会 応急手当を講習しました。

エ 大宅こども園心肺蘇生法指導 同園教員に心肺蘇生法講習を実施しました。

② イベントにおける救護活動

ア 勤修小学校夏祭り 山科区修小学校 **イ 勤修おやじの会主催子供キャンプ** 山科区勤修小学校 **ウ 大宅小学校サマーフェスティバル** 山科区大宅小学校 **エ 京都イタリアンフェスティバル(メルカート)** 京都市役所前広場 その他、やましな駅前陶灯路や 京都橘大学の七夕陶灯路にて、救護活動を行いました。

③ 防災活動

ハザードマップ作成 山科区大宅学区の道路危険箇所等を調査し、地図に表したハザードマップは、大宅小学校、大宅保育園などに配布し児童や園児への注意喚起と自動車運転手にも危険箇所を認識してもらい、学区全体での交通安全への取り組みの一環として作成しました。また、ハザードマップ作成後に東日本大震災が発災したものをうけ、自然災害(地震関連)の情報を明記した改訂版ハザードマップ作成の依頼もあり現在作成中です。

今後の課題と展望

各種イベントでの救護活動は、救急救命研究会に直接救護依頼される件数が毎年増加しており、複数の依頼が重複しお断りしなければならない状況も発生しています。イベント主催者や参加者の方々から「いてもらえるだけで安心できる」「子どもが転んでケガをしてもすぐに対応してもらえよかった」など、概ね好意的な意見を頂いており、学生のモチベーションアップに繋がっています。さらに各年代の方々とのコミュニケーション等の取り方をはじめ、言葉使いなど、社会常識に当てはめても違和感の無い対応が出来るよう学生に求めてゆきます。今後は地域防災なども含めた地域の災害に対する意識向上を目指し山科消防署、自主防災組織、町内会、自治会、PTAなどの各種組織団体と総合的な連携活動を、今後も進めていくことが出来るよう、学生と顧問が一つになり進めたいと思っています。

■ その他の地域連携活動

地域との連携をいっそう発展・促進させるために

橘セッション

地域連携センター×自治体×企業× NPO 法人 他

地域連携センターでは 2013 年度より、地域社会や地方自治体・企業・NPO 法人等との連携・交流をいっそう発展・促進することを目的とした企画である、「橘セッション」を開催しています。2015 年度は下記のとおり 2 回開催しました。第 1 回目～第 4 回目の概要は「地域連携実績集（1994 年度～ 2014 年度）」および地域連携センター広報誌『つながる』Vol.4～7 をご覧ください。

第 5 回 「地域連携センター『醍醐中山団地分室』開設記念ミニシンポジウム」

日 時：2015 年 6 月 10 日（水）15：00～17：00

場 所：京都橘大学第二会議室

「団地と大学の連携」をテーマに開催しました。高度成長期に建てられた団地は、建物の老朽化や住民の高齢化など、さまざまな困難を抱えており、こうした団地の問題解決に取り組む大学も少なくありません。今回は、本学地域連携センターの「醍醐中山団地分室」開設を記念し、本学を含む 4 つの大学から、団地との連携事例について報告を受けました（関西大学と山山団地、京都文教大学と向島ニュータウン、藤田保健衛生大学と豊明団地、京都橘大学と醍醐中山団地）。

（※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.7 に掲載）

第 6 回 「統合保育の現状と地域連携」

日 時：2015 年 11 月 13 日（金）16：30～18：30

場 所：京都橘大学優心館 E101 教室

「統合保育の現状と地域連携」をテーマに開催しました。この企画にあたっては京都市保育士会の多大な協力を受けました。セッションでは、保育の現場で日々、発達上の問題を抱えた子どもを支援している保育者が問題を提起し、それへのコメントや助言を研究者が述べた後、会場参加者も含めてディスカッションを行いました。今回は保育の場面で特に問題となりやすい、衝動制御が難しく、他児への攻撃行動を示す子どもの保育についての検討が行われました。

また、本学心理学科の学生による、保育園での発達障害児へのサポート活動の報告も行われ、多様な分野の関係者がともに子どもの発達とそれを支援する連携を考えるセッションとなりました。セッション終了後は、オプション企画として本学心理臨床センターの見学会がおこなわれました。

（※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.8 に掲載）



第 5 回 橘セッション会場の様子



第 6 回 橘セッション会場の様子

■ 受託研究・補助事業

山科“きずな”支援事業に採択される

やましな腰痛改善・予防教室

健康科学部理学療法学科ヘルスプロモーションコース教員＋学生×山科区

活動目的

本事業は、2015年度山科“きずな”支援事業に採択され、山科区の地域包括センターおよび山科中央老人福祉センターと連携し、腰痛改善・予防教室を開催しました。活動目的は、山科区在住の腰痛者を対象に、腰痛に関する知識の伝達および腰痛体操を実施し、効果を検証する介入研究として取り組みました。効果的な腰痛改善・予防教室の開催によって、参加者の腰痛を主訴とした医療機関への受診回数を減らし、生活の質を高めることが期待できます。

腰痛者を笑顔にする活動内容

腰痛改善・予防教室は、健康科学部理学療法学科ヘルスプロモーションコース教員と学生によって、合計13回の腰痛改善・予防教室を開催し、延べ270名の方々にご参加いただきました。方法は、3ヶ月を1クールとし、2週に1回の頻度で計6回のセッションを2セッション実施しました。

内容は、知識の提供として講義を行い、その後腰痛に効果的な体操を毎回実施しました。講義のテーマは、脊柱の発達と加齢変化、腰痛の発生因子と対応策、痛みを抑制する脳の仕組みとし、知識によって腰痛が軽減できることをお伝えしました。体操は、参加者の方々の姿勢ごとに分類し、各々の姿勢に合った腰痛予防体操を指導しました。さらに、セルフマネジメント能力を高めることを目的に日誌を作成し、参加者に日々記録してもらいました。本事業の効果の検証は、初回と最終回到痛みの程度、身体機能、精神・心理機能を調査しました。

腰痛改善・予防教室は、多くの参加者の痛みを軽減し、身体機能および精神心理機能の改善することができ、参加者の方々からも非常に好評でした。実際、暗い表情をしていた参加者の方々が、3ヶ月後にはとても素敵な笑顔に変化したことを実感しました。

今後も山科区在住腰痛者の健康増進のために、継続して教室を開催し、地域貢献に寄与したいと考えています。



腰痛予防体操の様子



腰痛の知識は講義で



日誌						
日付	月	日	(曜日)	月	日	(曜日)
痛みの強さ	痛くない	最も強い痛み	痛くない	最も強い痛み	痛くない	最も強い痛み
からだを動かした時の痛み	口 ない	口 あり	口 ない	口 あり	口 ない	口 あり
腰痛体操の実施	口 した	口 してない	口 した	口 してない	口 した	口 してない
一日の歩数	多	少	多	少	多	少
今日行った主な事						
おもしろいことや学びがあったこと						

◎この一週間ですることが増えましたが? □増えた □少し増えた □変わらない

日付	月	日	(曜日)	月	日	(曜日)
痛みの強さ	痛くない	最も強い痛み	痛くない	最も強い痛み	痛くない	最も強い痛み
からだを動かした時の痛み	口 ない	口 あり	口 ない	口 あり	口 ない	口 あり
腰痛体操の実施	口 した	口 してない	口 した	口 してない	口 した	口 してない
一日の歩数	多	少	多	少	多	少
今日行った主な事						
おもしろいことや学びがあったこと						

◎この一週間ですることが増えましたが? □増えた □少し増えた □変わらない

参加者の腰痛に対するセルフマネジメント能力を高めることを目的に作成した腰痛予防・改善の日誌

■ 受託研究・補助事業

山科“きずな”支援事業に採択される

パパとママのこころ育て広場

心理臨床センター×心理学科濱田智崇助教 + 井上裕樹助教 + 坂本久美非常勤講師 + 学生ボランティア + 保育士

臨床心理士である心理学科教員の主導で年間 8 回開催

パパとママのこころ育て広場は、本学心理臨床センターが開設された 2013 年夏から開催しており、2015 年度は 3 クール目の開催でした。今年度から、京都市山科区の「山科“きずな”支援事業」に採択され、その助成金を得ながら運営しています。年間 8 回、土曜日の 10 時 30 分から 12 時 30 分の 2 時間で設定され、対象は小学校入学前の乳幼児とその両親で、定員は 10 家族としています。スタッフは、保育士 2 名（更に 1 名ボランティアで加わることもあります）、臨床心理士である本学心理学科教員 3 名（濱田智崇助教、井上裕樹助教、坂本久美非常勤講師）、それに心理学科 2～3 回生で自ら希望した学生ボランティア 11 名です。

毎回の流れは、親子合同の設定遊び→親子別々の時間（保護者：グループワーク、子ども：自由遊び）→再び親子合同の設定遊び、としています。親子合同の設定遊びには、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、手遊びやリズム遊びなどを組み合わせ、親子が触れ合うことができる内容が盛り込まれています。

地域の子育て支援の一翼を担う事業として

保護者のグループワークには、ファシリテーターとして臨床心理士（濱田・坂本）が入ります。保護者同士が自由な雰囲気でき語り合いながら、子育て中の気持ちについて共有することができるよう配慮して、お互いを助け合う自助グループ的な機能を持たせるようにするとともに、必要に応じて助言も行っています。終了後のカンファレンスは、学生ボランティアも含めたスタッフ全員が参加します。学生ボランティアから子どもの様子や、どのように関わったかの報告がなされ、その内容と他のスタッフからの情報（観察の結果、保護者からの話）を総合して、それぞれの子どもの見立てを行い、子ども自身や保護者に今後どのような働きかけが必要か等を議論しています。

参加者数は開始以来徐々に増える傾向にあり、毎回継続して参加する親子も増えています。今年度の参加申込家族数は以下の通りです。

5月：4、6月：6、7月：6、(8月休)、9月：9、10月：7、11月：8、12月：9、1月：9

現在は、山科保健センターの三歳児健診の事後フォローとしての役割も担うようになり、そちらからの紹介で参加に至るケースが多いです。また、本広場参加者の中から、心理臨床センターの個別対応ケースも出るなど、地域の子育て支援の一翼を担う事業として定着しつつあります。



毎回継続して参加する親子も増えています

■ 受託研究・補助事業

大学コンソーシアム京都受託研究

2015年度「未来の京都創造研究事業」に採択

京都橘大学現代ビジネス学部小辻寿規助教

「京都市におけるまちの居場所運営の継続要因及び終了要因の抽出」概要

「未来の京都創造研究事業」は、「大学のまち京都」の『知』の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するため、大学の研究者と京都市の担当部署との協力により調査・研究を行う事業として行われています。本研究は、現代ビジネス学部都市環境デザイン学科小辻寿規助教を研究代表とするグループ（文化政策学研究科院生の大田雅之を含む）が受託し行われました。

研究の内容は、社会的孤立・孤独死問題の解消に向けた取り組みである「まちの居場所」について、京都市の地域特性に即した継続要因と終了要因を抽出し、市民による活動への援助と行政による支援の在り方を検討することです。

調査内容

本研究では京都市内のまちの居場所運営経験者 20 名程度および居場所支援事業を推進する行政組織担当者（保健福祉局、文化市民局、行政区担当部署等）や社会福祉協議会等への包括的な聞き取り調査を行いました。また、支援の在り方を京都市と比較検討するために東京都、埼玉県、神奈川県、新潟県、静岡県等の先進事例及び行政の支援担当部署への聞き取り調査を行いました。

研究結果

他都市における行政による支援の先進事例においては、まちの居場所の運営会議に行政が参加する他、定期的に訪問するなど、①行政とまちの居場所のパートナーシップ強化の取り組みが活発に行われている。②（新潟県、静岡県を中心に）居場所の運営者を育てることや運営者同士のつながりづくりに力を入れており、その成果として行政による助成金に頼らない運営でも可能なまちの居場所が増加しつつある。③先進事例には、運営者の中に大学教員や活動分野の専門家が参加していることが多くみられ、スタッフと行政職員が協働を行いやすいように調整している。

京都市の民間のまちの居場所およびその支援体制について次の諸点を指摘しました。①終了・継続要因共々、第一の理由は経済面ではない。②地縁組織に比べ、個人が運営する居場所は、利用できるリソースの少なさから困難を抱えやすい（居場所自体の「孤立」問題）。③継続事例は活動内容の柔軟性が高い。④継続事例は利用者のリソースを動員する（利用者が運営に携わる、物品を提供する等々）。⑤行政組織とのパートナーシップとしては、往々にしてよい関係が築けていない。⑥行政組織内での、「社会的孤立」問題を軸としたパートナーシップが築けていない。



まちの居場所で提供されているメニュー



まちの居場所についての公開調査の様子

■ 受託研究・補助事業

平成 24 年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択事業

地域資格制度による 組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化

活動の概要

平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業で選定された「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」は、本学を含めた京都府下の 9 大学が連携し、大学と地域社会との組織的な連携（＝大学地域連携）を深化させつつ、大学・大学院教育の本体部分に地域社会との連携を埋め込んでいくという教育の現代的で普遍的な課題を解決することを目的としています。

また、地域社会からの要請に応える地域公共人材の育成に資する大学間の共同教育プログラムを地域資格制度のフレームに準拠して構築していきます。



交流会の様子（那智勝浦町）

活動内容

本補助事業は、「地域公共人材」を共通する人材育成目標として掲げ開発した修士レベルの地域資格制度と資格認証スキームを基本としており、その資格制度を学部レベルも含めたものに拡充し、また、アクティブ・ラーニングを柱とした地域連携教育プログラムを開発することによって、大学の立地がない地域における大学地域連携のモデルを構築することを重点的な課題としています。

本学では 6 つのプロジェクトを実施し、①企画から実施までの全てを学生に経験させるもの、②座学と実習の組み合わせ、③教職員や学生以外と連携するという教育方法を開発しています。ここでは 2 つのプロジェクトを紹介します。

地域資源を利用した第 6 次産業的ビジネス展開プログラム

都市文化資源論を通じて第 6 次産業育成手法を応用した形で学生と地域産業とを結びつけられるような連携事業（授業）を実施しています。学生自らが京都の伝統産業から現代産業に至る多様な都市（地域）を見つめながら社会課題・地域課題の基礎研究を行うとともに、受講生らが志向する新たなビジネスモデルのプランニング段階から実施し、最終的には 1 つの成果品（編集物や試作物等）をプロデュースするまでの研究実践型教育です。

今年度は、「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」を発足させ、和歌山県東牟婁郡那智勝浦町にて、2015 年 8 月 2～4 日の 2 泊 3 日でフィールドワークを実施しました。学生から見た熊野地域を現状分析していくことを目標として、観察テーマを事前に設定し、視察や体験などの活動を行いました。他、地域の人々と意見交換する場も設け、熊野地域の地域振興のための提案を行いました。

学生からは、「マグロ以外の名物、じゃばらや熊野牛、那智黒からイチゴ、お茶などもあるので推すべき。地元のものを使っただけの BQ ができるプランがあったらいいのでは？ また食べ歩きできるグルメがあった方がいい。」や「まちの人は親切で温かいけれど、少しおとなしい。観光地として、たとえば、道案内の看板、休憩場所、お土産屋の呼びかけなどがあったらいい。」などの意見が挙げられ、とても充実した意見交換会になりました。来年度以降も、那智勝浦の今後の地域振興の一助となるよう、プログラムを展開していく予定です。



観光資源を研究

コミュニティアーツを活用したまちの繋がりと文化創発プログラム

このプログラムは「思いがけない出来事」であるイベントを地域で体験し、地域課題達成に資する文化イベントをデザインする能力養成を目的としています。そのため、障害のある人たちを含む地域の人たちが、何かしら共通の活動や話題をもって定期的に交流する居場所とイベントの発表機会を創発することをテーマにしています。

今年度も、ほぼ毎月、京都市立山科青少年活動センターを中心に、美術家や舞踊家などのアーティストのサポートのもと、ワークショップを実施しました。ワークショップではテーマを決めず、参加者の自主性を尊重し、参加者の様子を見ながら、その時にあったワークショップを展開しています。例えば、絵を描き、紙芝居の制作をしたり、糸電話づくりを段ボールや風船といった紙コップと糸以外を使ってつったり、楽器やおもちゃを使って即興芝居の制作を実施するなど、今年度は様々な芸術ジャンルが混じったワークショップになりました。また、「やませい"あえる"フェスタ」（主催：京都市山科青少年活動センター）や「京都障害者芸術祭 共生の芸術展」（主催：京都府）にてワークショップを実施し、地域の人たちと一緒に、作品制作もしました。

アートを通じて交流することで、年齢や障害がある、ないにかかわらず、みんな楽しんで、沢山のひとと触れ合うことができたなど、めくるめく紙芝居の活動の機会が、地域には、多様な背景を持つ人たちがいるということ、様々なコミュニティが存在するという認識ができる場となっています。今後はより、学生が主体になって、新しい課題を見つけることをプログラムの目標とし、創発的な文化環境を形成することを目指します。

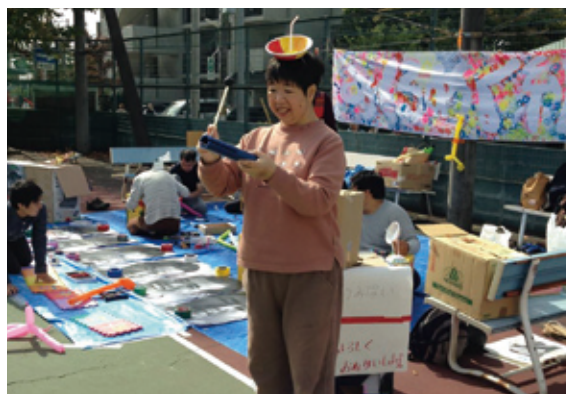
活動の成果・今後の目標・課題

本事業の実施によって、平成 26 年度より、本学で初級地域公共政策士 文化プロデュース力養成プログラムをスタートしました。このプログラムは都市や地域にある文化財や文化施設、文化的景観、芸術などの文化的資源に着目し、それらを発掘または再発見する能力を育て、文化産業やまちづくり、都市観光、アーツマネジメント、文化行政などの幅広い領域から社会的課題にアプローチし、プロデュースする能力を養成することを目的としています。

ここで紹介した 2 つのプログラムは、来年度以降、実践的な学習を学ぶ科目として、展開されていきます。そのため、資格教育プログラムとして正課に組み込むことができたアクティブ・ラーニングの評価を行い、カリキュラムの改善を目指していきます。



ワークショップの様子



やませい"あえる"フェスタでの様子

■ 協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2013年～2015年

協定（連携）先	締結日	締結事項	備考
山科区	2013年 9月24日(火)	<p>本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進 	 <p>地域連携・協力に関する協定</p>
博愛会病院	2014年 3月5日(水)	<p>理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。</p>	
大宅保育園 (現おおよげこども園)	2014年 6月1日(日)	<p>対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。</p>	
滋賀県野洲市	2014年 6月17日(火)	<p>地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、協定を締結。</p>	
京都市・醍醐中山団地 町内連合会	2014年 10月30日(木)	<p>京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康及び福祉活動 	 <p>連携協定</p>
滋賀県草津市	2014年 12月25日(木)	<p>本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業 	 <p>子育て支援・包括協定</p>
大津市老人クラブ	2015年 6月10日(水)	<p>地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。</p>	
京都市東部文化会館	2015年 11月5日(木)	<p>本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材を育成する ○学生の参加・学習 	

教員の活動実績等

2015年度 学部・学科別活動実績

① 地域を対象とした教育活動

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 a～c	野村幸一郎	51名	山科区 岩屋神社	講義後に見学、事後レポート見学、事後レポートを提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 a～c	辻本千鶴	51名	伏見区 醍醐寺	講義後に見学、事後レポート見学、事後レポートを提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 a～c	蒲 豊彦	51名	山科区 一燈園	講義後に見学、事後レポート見学、事後レポートを提出
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究	1回生 a～c	林 久美子	51名	山科区 毘沙門堂	講義後に見学、事後レポート見学、事後レポートを提出
文学部	歴史学科	地域課題研究	c	尾下成敬 王 衛明 小野 浩 高久嶺之介 増淵 徹 松浦京子	1回生 全員	京都市	学外研究として、葵祭の見学や京都市内の歴史遺産の見学を行う。
文学部	歴史遺産学科	地域課題研究	d	有坂道子 一瀬和夫 小林裕子 巽淳一郎 登谷伸宏	1回生 全員	滋賀県 比叡山	延暦寺僧侶による解説つきの比叡山見学
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ	b	有坂道子	12名	伏見区 醍醐寺など	醍醐寺および内海家（醍醐和泉町）所蔵文書を用いた古文書解説
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学基礎ゼミⅠ	b	有坂道子	12名	京都市	細見美術館特別展見学
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅰ	d	有坂道子	12名	京都市	京都国立博物館特別展見学
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅱ	d	有坂道子	12名	京都市	京都国立博物館特別展見学
文学部	歴史遺産学科	京都国立博物館特別講演会		小林裕子	3・4回生 ゼミ (33名)	東山区	美術史ゼミのためだけの京博特別展に連動した講演会（山本英男氏）
文学部	歴史遺産学科	基礎ゼミⅠ 学外見学		小林裕子	2回生 基礎ゼミ (27名)	京都市	長谷川等伯襖絵の特別見学
文学部	歴史遺産学科	日本美術史Ⅰ 学外見学		小林裕子	1～4回生 履修者 (35名)	宇治市 平等院	鳳凰堂学外見学
文学部	歴史遺産学科	昭和大学学外授業		増淵 徹 一瀬和夫 登谷伸宏 小林裕子	昭和大学 履修者 (25名)	京都市 鴨東地区	建長寺・六波羅蜜寺・方広寺・三十三間堂
文学部	歴史遺産学科	仏像調査		小林裕子	美術史 ゼミ4名	京都市 洛西地区	華厳寺（鈴虫寺）本堂安置仏調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅳ講演会		小林裕子	美術史 ゼミ17名	滋賀県 大津市	大津市歴史博物館学芸員鯨井清隆氏による講演と展覧会見学
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅳ学外見学		小林裕子	美術史 ゼミ17名	京都市 洛東地区	東福寺文化財特別公開見学（三門・即宗院）
文学部	歴史遺産学科	世界遺産PBL (京カレッジ事業)		一瀬和夫	学部、 大学院生	山科区	醍醐寺の活動をパブリック化する
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習		一瀬和夫	学部、 大学院生	山科区	地域の調査研究者と山科・小山石切丁場の踏査と測量

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	歴史遺産 学科	大宅廃寺跡展示 (京都市)		一瀬和夫	3・4回 生	山科区	歴史遺産実習で京都市から大宅廃寺出土の瓦を借用、清史館1階で展示
文学部	歴史遺産 学科	研究入門ゼミⅠⅡ	abc	登谷伸宏	1回生	山科区	山科本願寺遺跡の見学
文学部	歴史遺産 学科	研究入門ゼミⅠⅡ	abc	登谷伸宏	1回生	左京区	重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」の見学
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産基礎ゼミⅡ	c	登谷伸宏	2回生	東山区	方広寺・豊国神社・豊国廟の見学
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産学演習Ⅰ	b	登谷伸宏	3回生	滋賀県 大津市	石山寺・三尾神社・園城寺の見学
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産学演習Ⅱ	b	登谷伸宏	3回生	大阪府 堺市	堺市の歴史的建造物の見学
文学部	歴史遺産 学科	歴史遺産学実習Ⅳ	b	登谷伸宏	3回生	岐阜県・愛知県	高山市・犬山市の歴史的建造物の見学

人間発達 学部	児童教育 学科	地域課題研究		神谷米司 倉持祐二 佐野仁美	学科 1回生 全員	京都市 山科・醍醐地域	山科ナス農家、山科砥の粉工場長、社会福祉事務所長の3名による講演によって山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業など多面的にとらえるきっかけとした(3コマ)。その後グループワークを行い(3コマ)、最後にプレゼンテーションを行った(2コマ)。発表テーマは保育園・幼稚園等での継続的活動、イベントへの参加経験、施設訪問、ちびっこランドの活動、など。
人間発達 学部	児童教育 学科	教育演習Ⅰ		佐野仁美	3回生 ゼミ生	山科区	音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月に1回ももの木こども園(山科区)にて訪問演奏。
人間発達 学部	児童教育 学科	基礎演習ゼミ		池田 修	2回生 ゼミ生	京都府全域	二回生ゼミで「京加留多の取り札を作る」という試みをした。京加留多の読み札の連続型テキストをもとに、取り札48枚の絵の部分を書真で表現。また、この授業は、日本デジタル教科書学会で発表し、本学の今年度の紀要に収めた。
人間発達 学部	児童教育 学科	国語科教育法Ⅰ		池田 修	3回生 25名	京都府全域	地元にある文学作品の舞台を訪れて調査報告するという課題を実施。
人間発達 学部	児童教育 学科	フィールドワーク 運動会		小寺隆幸他	児童 コース 1回生	京都市 山科・醍醐地域	山科・醍醐地域の小学校や出身校の運動会を観察しつつ、教師の取り組みに協力する。
人間発達 学部	児童教育 学科	小学校フィールド ワーク		小寺隆幸他	児童 コース 2回生	京都市 山科・醍醐地域	週1回ほどの割合で山科地域の小学校や出身校で授業を参観しつつ、個々の子どもの学習支援を行う。
人間発達 学部	児童教育 学科	研究入門Ⅰ		小寺隆幸	1回生小 寺ゼミ生	滋賀県 近江八幡市	近江兄弟社小学校(近江八幡市)の学外施設「兄弟社村」の草刈り
人間発達 学部	英語コミュニ ケーション 学科	地域課題研究		アングス・ノーマン	学科 1回生 対象 80名	京都市 山科・醍醐地域	山科ナス農家、山科砥の粉工場長、社会福祉事務所長の3名による講演会によって山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業など多面的にとらえるきっかけをつくった。その後、グループワークを経て(3コマ)、グループ毎に原則として英語によるプレゼンテーションを行った。主たるテーマは醍醐寺等を訪れる外国からの観光客を想定して、名所旧跡を紹介するものであった。
人間発達 学部	英語コミュニ ケーション 学科	児童英語教育研究		金山 敬	27名	京都市 京都学びの街生 き方探求館3階 「スチューデ ントシティ」	学生ボランティアとして「Kyoto Global Kids in スチューデントシティ」のイベントに参加。京都市内の小学校6年生160名を招き、外国人とのやり取りを手伝ったり、英語での交流を通じて、児童の生き方探求教育を援助した。
人間発達 学部	英語コミュニ ケーション 学科	児童英語教材研究		金山 敬	18名	京都市総合教育 センター	京都市小学校英語教育研究会の研究授業を参観し、文部科学省英語教育調査官の講演を聴く。
人間発達 学部	英語コミュニ ケーション 学科	児童英語教育指導演 習Ⅰ		金山 敬	12名	京都市立 大宅小学校	小学4年生、5年生、6年生の英語活動の授業を数回に渡り見学実習し、小学生にどのように英語を慣れ親しませるかを学ぶ。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	児童英語教育指導演習Ⅱ		金山 敬	7名	京都市立大宅小学校	小学2年生の3クラスにて英語で世界民話や日本民話など6つの物語をエプロンシアターで演じ、子どもたちの情操や言語面で今までと異なった手段により豊かな刺激を与え、子どもたちの発達を促す可能性を模索した。
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	多文化理解プログラム演習		アンガス・ノーマン	11名	山科区	Social Justice（平等社会）の一環としてCommunity Translation（地域のための翻訳活動）の概念とその必要性を説明し、コミュニティーに貢献できる翻訳の訓練を行う。飲食店のメニュー、観光案内、医療の施術カード、施設のパンフレットを通して、さまざまな翻訳の技法と山科区でのCommunity Translationのニーズや実際に学ぶ。
人間発達学部	英語コミュニケーション学科	グローバルビジネスⅡ		アンガス・ノーマン	10名	山科区	「多文化理解プログラム演習」に続いて、PBL形式の授業。学生が自発的にウェブ上の検索やフィールドワークを行い、山科区を中心に地域に貢献できるようなプロジェクトの計画を立て、それに関する調査と必要な翻訳を行う。その結果をプレゼンテーションで結果発表をする。ビジネスとの関連性も重視する。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	地域課題研究	h	関根和弘 北小屋裕 千田いずみ 夏目美樹 深澤雄二 福岡範恭	1回生	京都府・滋賀県	京都市消防局 山科消防署・消防団、京都橋大学 学生消防団との協働実習を行い、災害時の対応を学ぶ。新聞や地域情報誌、web などから山科・大津地域の過去の災害を探り、山科地域の現況と課題に対する企画の立案などを行った。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	地域課題研究	g	小辻寿規	1回生 132名	京都市・滋賀県	京都市内や滋賀県下でまちづくり活動をされている市民活動家や公務員の方をゲストスピーカーとしてお招きし、学生に対して講演していただき、地域における課題検討を行った。また、醍醐寺でのフィールドワークや京焼・清水焼の歴史を関係者から学び、地域の文化に関する理解を深めた。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	専門演習		近藤康子	12名	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	京都大学、武庫川女子大学、広島工業大学、広島女学院大学、兵庫県立大学、大阪工業大学の学生と共同して、「増田友也生誕100周年記念建築作品展」（10/26-12/12）の模型製作を行った。
現代ビジネス学部	経営学科	地域課題研究		松石泰彦	158名	山科区	山科地域を対象として、行政や企業の情報等を用いてPBLグループ学習をおこない、また地域のゲストスピーカーを招き、地域課題への理解を深めた。
現代ビジネス学部	経営学科	PBL「知財活用アイデア活用全国大会」		松石泰彦	7名	京都市	富士通他が主催する、未使用特許を用いた製品アイデアを地元企業に提示して地域活性化を目指す「知財活用アイデア活用全国大会」にPBLチームとして参加した。
現代ビジネス学部	経営学科	PBL「GUの会社案内作成」		今井まりな 片岡裕介 高山一夫	6名	京都市	NPO法人グローバル人材開発センターの協力のもとで実施された、学生の視点を盛り込んだ「GUの会社案内作成」に、チームとして参加した。PBLチームは「むすびわざ館」で行われた中間報告会を突破し、GU本社にて行われた最終報告会で報告した。
現代ビジネス学部	経営学科	大学間連携共同教育推進事業		今井まりな	25名	京都市 山科地域	地域資源のタイプに基づいて、山科地域に特有の地域資源を調査したうえで、観光型資源や農産物資源について実際に体験し、さらに地域資源を活用した新製品・サービス案について検討した。
看護学部	看護学科	地域課題研究	i	松本賢哉	1回生 100名	京都市 山科・醍醐地区	山科・醍醐地区の地域を知り、人々の暮らしと健康について考える
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ・Ⅲ		小野塚元子	2回生 100名 4回生 95名	山科区	山科区老人クラブ連合会の会員の方を対象に、2回生が「体力測定」、4回生が「健康教育」を実施している。本年度は、122名の方に参加協力いただいた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅰ・Ⅱ		小野塚元子	2回生 100名 3回生 95名	山科区	山科区老人クラブ連合会の女性委員に協力いただき、会員の中の一人暮らし高齢者の方への同行訪問を行っている。訪問先高齢者は、学生のプライマリファミリーとなっただき、学生は2回生後期から3回生前期にかけて、2回の訪問を実施している。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
看護学部	看護学科	ライフサイクル論実習		堀 妙子 小野塚元子	1 回生 85 名	山科区	ライフサイクル論実習として、山科区老人クラブ連合会主催の「美化ウォーキング」に参加した。1 回生全員が、老人クラブの方と共に、山科区役所から中央公園まで、ゴミを拾いながらウォーキングを行った。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習 I		小野塚元子	2 回生 100 名	京都府・大阪府	プライマリケア実習 I の産業保健の場として、地域の様々な企業で実習を行っている。本年度は、全国土木建築国民健康組合、大日本塗料、ワコール、第一紙行、洛東タクシー、京都科学、日通で行った。学生はこの中の 2 施設で、1 日ずつ実習を行い、産業の場での看護の役割について考える。
健康科学部	心理学科	マーケティング調査演習		永野光朗	3 回生 ゼミ 43 名	滋賀県 草津市	心理学科 3 回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、JR 草津駅東口近辺への来街者の意識や実態を明らかにするための来街者調査を近辺の商業施設 4 店舗において実施した。計 402 名分のデータを収集した。分析結果は草津市中心市街地活性化のために利用される予定である。

② 地域を対象とした研究活動

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
文学部	歴史遺産学科	内海家文書の整理	有坂道子	伏見区 醍醐和泉町	醍醐和泉町の内海家に伝来する古文書の整理を行い（2002 年度より継続）、目録作成作業を行う。最終巻（第 3 冊）となる目録の刊行は 2016 年度を予定。
現代ビジネス学部	経営学科	「地域の潜在的需要の発掘に向けた地域環境評価の再構築」	片岡裕介 阪本 崇 高原正興 高山一夫 関根和弘 河野良平 今井まりな	山科区	本研究は、詳細な地理空間情報を用いた、応用性の高い地域環境評価の方法論の構築をおこなうものであり、分析を通じて京都市山科区に立地する様々な種別の施設のアクセシビリティの特徴が示された。
看護学部	看護学科	地域課題研究プロジェクト「たちばな健やかクラブ」における看護介入プログラムの開発	河原宣子 堀 妙子 梶谷佳子 伊藤恵美子 松本賢哉 常田裕子 野島敬祐 小野塚元子	山科区	本研究の目的は、看護学実習を含むこれまで看護学部が構築してきた種々の既存事業の拡充を行い、地域住民に可視化される看護介入プログラムの開発を目指すことである。住民から直接ニーズ把握をすることや地域に向向いて活動する拠点づくりのため、山科区内の 2 か所のフリースペース（清水焼団地センター「みちくさの家」、山科区総合福祉会館 2 階）において、身体計測、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定等の測定と健康相談等の活動を定期的（計 6 回）に行った。
健康科学部	心理学科	男性を対象とした臨床心理学的子育て支援プログラムの開発	濱田智崇 青木 剛 井上裕樹	京都府・滋賀県	心理臨床センター主催「パパとママのこころ育て広場」において子育て支援プログラムの実践を積み重ねながら、子育て意識調査も実施した。草津市社会実験事業として、草津市内幼稚園保育園に子どもを通わせている保護者を対象に質問紙調査を行い、その結果を講演会で公開、報告書にまとめた。

③ 地域貢献 / 社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	滋賀県立守山高校 S GH 課題研究のための レクチャー	南 直人	なし	滋賀県	同校のスーパーグローバルハイスクール課題研究ドイツ 研修旅行に向けた「ドイツの歴史と文化」に関する講義 (7/14)
文学部	歴史学科	京都府立大学「和食 の文化と科学」プロ グラムに関連する授 業担当	南 直人	なし	京都府	同大学「和食の文化と科学」プログラム内の授業科目「お いしさの科学とデザイン」の授業を 2 回担当 (2015 年 11 月)
文学部	歴史学科	女性歴史文化研究所 第 24 回シンポジウム	松浦京子 南 直人	3 名	京都府	「近代と働く女性たち—明治・大正期のメディアと働く 女性」というテーマでのシンポジウムにおいて、松浦は 「ヴィクトリア・エドワード朝イギリスの女性労働」と いう題でコメンテーターをつとめ、南は司会として運営 にあたった。
文学部	歴史学科	向日市歴史的風致維 持協議会委員	高久嶺之介	なし	向日市	2014 年度以降委員を務める。
文学部	歴史学科	向日市文化資料館講 演会	高久嶺之介	なし	向日市	「京都からのびる近代の道—丹波・丹後への道を中心 に—」と題して講演 (11/21)
文学部	歴史学科	滋賀県近江八幡市 市史編集委員	高久嶺之介	なし	滋賀県 近江八幡市	2014 年度以降、近現代担当編集委員
文学部	歴史学科	同志社大学社史 資料室講演会	高久嶺之介	なし	京都府	「新島場と京都府政の人びと—大学設立募金運動をさ えた人脈—」と題して講演 (5/23)
文学部	歴史学科	京都高齢者大学	高久嶺之介	なし	京都府	「京の都の歴史と文化」という 1 年間のテーマのもと、「京 都府知事北垣国道とその時代—明治 10 年代から 20 年 代の京都—」と題して講演。実施場所は、京都高齢者大 学 (学校法人関西文理総合学園長浜バイオ大学京都キャン パス烏丸学舎内) である。(2016/2/18)
文学部	歴史学科	滋賀県草津市講演会	高久嶺之介	なし	滋賀県	草津宿街道交流館において「近世の道から近代の道へ— 滋賀県の道を中心—」と題して講演。(2016/2/28)
文学部	歴史学科	八幡市 「いにしえを学ぶ 歴史余話」	尾下成敏	なし	京都府	八幡市からの依頼を受け、「織田信長と京都・山城の城館」 というテーマで講演した。織田信長入京前後の政治史を 扱ったものである。
文学部	歴史学科	京都橘大学文学部・ 歴史文化ゼミナール	尾下成敏	なし	京都府	「徳川家康と京都」というテーマで講演した。関ヶ原合 戦後の政治史を扱ったものである。
文学部	歴史学科	ラポール学園 「日本史講座」	尾下成敏	なし	京都市	「織田政権論」というテーマで講演した。織田信長と諸 国のいわゆる戦国大名との関係を扱ったものである。
文学部	歴史遺産 学科	文化財研修会 (消防訓練)	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	2 回生全員	山科区	随心院において、山科消防署・地域消防団の方々と共に 文化財防災訓練を実施
文学部	歴史遺産 学科	文化財特別公開にお けるボランティア	小林裕子 登谷伸宏	1～4 回生 有志 (8 名)	京都市 上賀茂神社・ 下鴨神社	上賀茂神社・下鴨神社における文化財の特別公開にお ける誘導・案内
文学部	歴史遺産 学科	文化財特別公開にお けるボランティア	小林裕子	学科学生 有志	東山区	東福寺文化財特別公開における誘導・解説
文学部	歴史遺産 学科	泉佐野市の寺社建築 調査	登谷伸宏	2～4 回生 有志	大阪府 泉佐野市	泉佐野市内の寺社建築の調査
文学部	歴史遺産 学科	華厳寺 (鈴虫寺) の 建造物調査	登谷伸宏	2～4 回生 有志	京都市	華厳寺 (鈴虫寺) の建造物調査
人間発達 学部	児童教育 学科	草津市における幼稚 園教諭ステップアップ 事業	神谷栄司他	なし	滋賀県 草津市	草津市と本学の協定にもとづく活動。公立幼稚園の園内 研究会・公開保育研究会での助言、公私・幼保の保育者 を対象とした保育講座での講演。年度末に冊子に内容を まとめる。
人間発達 学部	児童教育 学科	げん Kids★応援隊	倉持祐二 (顧問)	約 30 名	京都市 山科・醍醐 地域	学内外で 14 回の企画を実施。勤修小学校のキャンプ、 地域の自治会の地蔵盆でのリクレーション、学内でのもの 作り・スポーツ企画に加え、醍醐中山団地の地域連携 センター分室開所式、草津市の宿場祭りにも参加。また、 地元の大宅小学校の児童にアンケート調査を行い、今後 の活動を豊かにすることも目指している。

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
人間発達学部	児童教育学科	京都子ども守り隊 ～守るんジャー～	池田 修(顧問)		山科区 大宅小学校 周辺	大宅小学校の下校の見守り活動、土曜日夕方のパトロール(大宅小学校区)、地域活動への参加(もちつき大会、サンタ大行進)、エコアクション(山科区役所からの依頼)、認知症の方々へのサポート(まごころデイサービス)
人間発達学部	児童教育学科	オペレッタ公演	阿部真子	学生 12 名	山科区 小野児童館	卒業を控えた 4 回生が、小野児童館の子どもたちの前で公演を。演目は「わらしべ長者」(2016/3/4)
人間発達学部	児童教育学科	みほとしんこの Cabaret Night	阿部真子他	なし	山科区 ミュージック サロン Y O S H I K A W A	一般の観客のみならず、普段クラシックになじみのない学生たちも一緒に楽しめるカバレット(寄席)をつくりだす。ライブ公演は 2 回(2016/2/26 と 3/10)。

現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	約 10 名	滋賀県 守山市	守山市の音楽によるまちづくり支援を行う。まち全体による相乗効果があった。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の運営	木下達文	約 20 名	滋賀県	びわ湖ホールが行うイベントの子ども部門の運営支援を行う。約 3 万人来場する。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	「やましな駅前陶灯路・バル」の運営	木下達文	約 80 名	山科区	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は商店街イベントも併催した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	熊野再発見プロジェクト	木下達文	約 25 名	和歌山県 那智勝浦町	和歌山県那智勝浦町の地域創生に関するプロジェクト。学生視点での提案を実施。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科	KYOTO 駅ナカアートプロジェクト	河野良平	約 10 名	山科区	京都市交通局主催による地下鉄・柳辻駅改札周辺の壁面デザインプロジェクト

看護学部	看護学科	大津市老人クラブ連合会体力測定	松本賢哉	毎回 ボランティア 10 名程度	滋賀県 大津市	大津市の各学区で行われている体力測定会の補助(会場:①6/26 和邇市民体育館、②9/25 皇子山体育館、③3/24 藤尾小学校)
看護学部	看護学科	第 4 回 障がい児支援講座	社会貢献WG 小野塚元子	39 名	山科区	本学の学生を対象として実施している。東総合支援学校の先生方を講師としてお招きし、本学の学生を対象として、障がいのある子どもに対する関心を高めるため、講演と体験学習を企画した。本年度の参加者は、39 名である。
看護学部	看護学科	いちごカフェ	小野塚元子 深山つかさ 鈴木久義 田邊幹康	ボランティア 5 名	山科区	老人保健施設いわやの里において、毎月 2 回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。
看護学部	看護学科	第 11 回 たちばな健康相談	社会貢献WG 西村美八 小野塚元子	ボランティア 48 名	山科区	大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第 11 回の実施になった。参加者は 252 名である。
看護学部	看護学科	公開講座「生活にいかそうリラックスセッション～こころと身体を楽に過ごすために～」	社会貢献WG 梶谷佳子 内田亜里沙		山科区	小坂橋先生に講師をお願いし、地域住民対象にリラックスセッション法についての講義・演習を行う。参加者 20 名強
看護学部	看護学科	第 1 回 出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地	社会貢献WG 松本賢哉 梶谷佳子 小野塚元子 その他の教員	ボランティア 11 名	伏見区 醍醐中山団地 集会所	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で実施した。参加者は、41 名であった。(6/6)
看護学部	看護学科	第 2 回 出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地	社会貢献WG 松本賢哉 小野塚元子 内田亜里沙 堀 妙子 その他の教員	なし	伏見区 醍醐中山団地 集会所	学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で第 2 回目を実施した。参加者 21 名であった。学生ボランティアは 9 名参加予定であったが、降雪のため、教員のみでの実施とした。(1/20)
看護学部	看護学科	出張たちばな健康相談 in 大宅大圓寺集会所	社会貢献WG 松本賢哉 木村知紗 小野塚元子 堀 妙子	なし	山科区 大圓寺 集会所	大宅大圓寺集会所で毎週土曜日に開催されている「ふれあい・大宅」(大宅地域包括支援センター主催の居場所づくり事業)のイベントとして開催依頼があり活動した。参加者は 28 名であった。

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
健康科学部	理学療法学科	野州市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田 伸 堀江 淳 白岩加代子 安彦鉄平 阿波邦彦 窓場勝之	22名	滋賀県 野州市	392名の野州市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果をふまえて、高齢者自身が健康度を体力年齢でチェックできる「高齢者向け元気はつらつサポートブック」、ならびに高齢者の介護予防対策に有効と思われる健康体操を収録した「たちばな健康体操DVD」を作成し、野州市および参加高齢者に配布した。
健康科学部	心理学科	臨床心理セミナー	菅佐和子 中西龍一 ジェイムス朋子 青木 剛	なし	京都府 滋賀県 大阪府 等	心理臨床センター主催事業。臨床心理士と周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座。「思春期・青年期の事例について考える」「ゲシュタルト療法入門」「精神分析的な心理療法入門」「臨床家のためのフォーカシング」の4回実施し、のべ37名の参加があった。
健康科学部	心理学科	対人援助職セミナー	松下幸治	なし	京都府 滋賀県 大阪府 等	心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。6回実施し、のべ50名の参加があった。
健康科学部	心理学科	対人援助職セミナー (草津市)	松下幸治	なし	滋賀県 草津市 幼稚園及び 保育園	心理臨床センター主催事業。草津市の幼稚園及び保育園の教諭及び保育士を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。2回実施し、のべ15名の参加があった。
健康科学部	心理学科	不登校児の支援ボランティア	井上裕樹	学生6名	兵庫県立但馬 やまびこの郷 (不登校児童生徒の支援施設)	不登校児童生徒を対象とした4泊5日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。
健康科学部	心理学科	幼稚園児の保護者対象の講演会	日比野英子	なし	滋賀県 草津市	草津市立幼稚園2か園において、保護者対象の教育講演会の講師を務めた。
健康科学部	心理学科	保育士対象の研修会講師	日比野英子	なし	京都市	京都市保育界統合保育委員会における研修の講師を務めた。
健康科学部	心理学科	統合保育を考えるシンポジウム 企画・運営	日比野英子	1人	京都市	第6回橘セッションの企画として、京都市保育会の協力を得て、「統合保育の現状と地域連携」というテーマのシンポジウムを企画・運営した。
健康科学部	心理学科	保健センター1歳6か月児健診	日比野英子	なし	西京区	1歳6か月児健診において心理相談を担当した。カンファレンスにおいて、保健師や保育士へのスーパービジョンを行った。
健康科学部	心理学科	母子教室の講師	日比野英子	なし	滋賀県 野州市	0-3歳の子を持つ母親を対象に、子どもの発達や子育てについての講座を担当した。
健康科学部	心理学科	京都市保育園連盟の巡回相談	日比野英子	なし	京都市	京都市保育園連盟の依頼により加盟保育園の保育コンサルテーションおよび発達相談を行った。
健康科学部	心理学科	右京区保育会研修会講師	日比野英子	なし	右京区	右京区保育士会の研修会の講師を務めた。
健康科学部	心理学科	商工会議所講演会の講師	日比野英子	なし	滋賀県	滋賀県商工会議所女性会からの依頼により、会員対象の講演を行った。
健康科学部	心理学科	保育コンサルテーション	日比野英子	なし	山科区 おおやけ こども園	統合保育に関するコンサルテーションを4回実施した。
健康科学部	心理学科	保育コンサルテーション	日比野英子 濱田智崇	なし	滋賀県 草津市	統合保育に関するコンサルテーションを8箇園でのべ19回実施した。
健康科学部	心理学科	発達障害児への学生による支援	日比野英子 濱田智崇 井上裕樹	学生2名	山科区 大宅保育園	発達障害児への支援として、学生が個別対応の補助を行い、教員はそのスーパービジョンを実施した。
健康科学部	心理学科	パパとママのこころ育て広場	濱田智崇 井上裕樹	学生11名	京都市 滋賀県大津市	心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センタープレイルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は8回実施。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
健康科学部	心理学科	山科保健センター 3歳児健診	濱田智崇	なし	山科区	山科保健センターが実施する3歳3ヶ月児健診において、心理相談を担当した。発達障害の疑いや、保護者に子育て不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。
健康科学部	心理学科	山科保健センター すくすくクラブ講師	日比野英子 濱田智崇	なし	山科区	山科保健センター主催、4ヶ月～8ヶ月の赤ちゃんと保護者を対象とする「すくすくクラブ」において「子育てを楽しむために」と題して講演を行った。6月と11月に実施した。
健康科学部	心理学科	大宅イクメンパパの会	濱田智崇	なし	山科区 おおやけ こども園	大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。今年度は大宅イクメンパパの会として、3回実施した。

■ 広報誌「つながる」2015年度 CONTENTS

地域連携センターでは、地域貢献活動や公開講座、地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、年2回広報誌「つながる」を発行しています。

「つながる」第7号 2015年11月20日発行

1. 第4回橋セッション

山科区老人クラブ連合会に支えられた看護学部…
そしてこれからの10年

- 河原 宣子 本学看護学部教授
- 中川 良雄 山科区老人クラブ連合会奉仕委員会副委員長
- 土田 絹枝 山科区老人クラブ連合会副会長、女性委員
- 太田 靖子 山科区老人クラブ連合会女性委員会委員長
- 神井 壽治 山科区老人クラブ連合会奉仕委員、前奉仕委員長
- 岡田 宏美 山科区老人クラブ連合会若手委員会副委員長
- 堀 妙子 本学看護文化交・社会連携推進センター長、看護学部教授
- 小野塚 元子 本学看護学部専任講師
- 遠藤 俊子 本学看護学部長

2. 第5回橋セッション

地域連携センター「醍醐中山団地分室」
開設記念ミニシンポジウム

- 河股 智矩 関西大学大学院理工学研究科環境都市工学専攻
建築学分野博士課程前期課程2回生
- 塚原 健司 関西大学大学院理工学研究科環境都市工学専攻
建築学分野博士課程前期課程2回生
- 福間 航 関西大学大学院理工学研究科環境都市工学専攻
建築学分野博士課程前期課程2回生
- 小林 大祐 京都文教大学総合社会学部専任講師
- 都築 晃 藤田保健衛生大学医療科学部講師
地域包括ケア中核センター担当
- 篠原 誠一郎 京都市都市計画局住宅室住宅管理課担当課長補佐
- 武藤 賢吾 本学学術振興課長

3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第17回

京都市立日吉ヶ丘高等学校

- 河野 良平 本学現代ビジネス学部准教授

4. Interview ともに 第7回

「山科砥之粉」は伝統産業の縁の下のチカラ持ち
国内唯一の砥之粉づくりを次世代に手渡したい

- 進藤 謙二 株式会社進藤謙商店代表取締役



「つながる」第8号 2016年3月20日発行

1. Interface 実践の知 第7回

醍醐中山団地で実践知を育む
一地域住民と学生による地域活性化活動の現状—

- 小辻 寿規 本学現代ビジネス学部助教
- 醍醐中山団地と京都橋大との連携事業への期待
- 谷 亮治 本学客員講師
京都市文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー

2. 第6回橋セッション

統合保育の現状と地域連携

- 中村 和夫 本学健康科学部教授
- 三山 岳 愛知県立大学教育福祉学部講師
- 山木 萌 本学健康科学部4回生
- 日比野 英子 本学健康科学部長、心理臨床センター長

3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第18回

京都府立医科大学体育館

- 河野 良平 本学現代ビジネス学部准教授

4. 経営デザインフォーラム報告

関西地域の活性化と産業振興

- 今久保 幸生 本学現代ビジネス学部教授

5. Interview ともに 第8回

誰もがその人らしく、いきいきと過ごせる山科にむけて
区民が主体的に参加できるまちづくりをめざす

- 堀池 雅彦 京都市山科区長



2015 京都橘大学地域連携実績集 (2015年4月～2016年3月)

発行日 2016年3月31日

発行 京都橘大学 地域連携推進機構 地域連携センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

TEL : 075-574-4342 FAX : 075-574-4149

URL : <http://www.tachibana-u.ac.jp>

E-mail : occ@tachibana-u.ac.jp



育ちあり、響きあり

京都橘大学